米国大使館レファレンス資料室／アメリカンセンター・レファレンス資料室

米国国務省　2010年５月
第15巻第５号
http://www.america.gov/publications/ejournalusa.html

米国国務省国際情報プログラム局

発行責任者	Daniel Sreebny
編集主幹	Jonathan Margolis
出版部長	Michael Jay Friedman
編集長	Richard W. Huckaby
副編集長	Bruce Odessey
編集アドバイザー	Nadia Shairzay
制作	Janine Perry
デザイナー	Chloe D. Ellis
写真編集	Maggie Johnson Sliker
表紙デザイン	Diane Woolverton
グラフィックデザイン	Vincent Hughes
レファレンス・スペシャリスト	Stephanie Joyce
	Martin Manning
	Nadia Shairzay

Cover: © Joseph Pobereskin/Mira.com
Printed in Japan

米国国務省の国際情報プログラム局は、eJournal USAのロゴ名で電子ジャーナルを発行し、米国や国際社会が直面する主要な問題、ならびに米国の社会や価値観、考え方、さまざまな制度について検証しています。

最新号はまず英語で発行され、続いてフランス語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語版が発行されます。必要に応じてアラビア語、中国語、ペルシア語の翻訳版が発行される場合もあります。ジャーナルはそれぞれ、発行巻数（出版された年の番号）と、号数（１年間に発行された各号の番号）別に目録に掲載されます。

ジャーナルの中で提示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。米国国務省は、ジャーナルがリンクするインターネット・サイトの内容、およびこれらのサイトへの継続的な利用の可能性について、一切の責任を負いません。各サイトについての責任は、サイトの発行者のみに帰属するものとします。ジャーナルに掲載される記事や写真、イラストは、著作権についての明記がない限り、米国外での複製や翻訳を認めますが、明記があるものについては、ジャーナルに記載されている著作権保有者の許可を得なければなりません。

ジャーナルに関するご意見等は、最寄りの米国大使館・アメリカンセンターのレファレンス資料室、または下記の編集部までお寄せください。

Editor, eJournal USA
IIP/PUBJ
U.S. Department of State
2200 C Street, NW
Washington, DC 20522-0501
USA
E-mail: eJournalUSA@state.gov

編集・発行：米国大使館レファレンス資料室
（2011年６月初版、2012年４月再版）
本号の日本語文書は参考のための仮翻訳であり、正文は英文です。

本号について

2009年11月、中国を訪問したオバマ大統領は、上海のタウンホールミーティングで、参加者全員に勧誘の言葉を述べました。「ここにお集まりの多くのみなさんに、米国を訪れて旅行したり滞在したりする機会を持っていただきたい。ぜひ、米国においでください」

毎年、数千万の人々が米国を訪れます。その中には、大都市に遊びに来る人もいれば、大自然の美を堪能するために来る人もいます。また教育を受けに来る人もいれば、商談をまとめるためにやって来る人もいます。

米国政府と米国国民はそうした訪問客を歓迎いたします。米国国務省は、ビザ発給手続きの迅速化と簡素化に懸命に取り組んでおり、現在では、ビザ免除プログラムに参加する36カ国の国民については、商用または観光を目的とする90日以下の訪問であれば、ビザの申請は不要になりました。

米国を訪れる理由はいろいろあると思いますが、人々との出会いが目的ならば最高です。あなたが出会った人たちは、例えばテキサス州オースチンのあまり知られていないハイキングコースに案内して、素晴らしい景観を見せてくれるかもしれません。メーン州の絶品ロブスターサンドイッチを食べられるレストランに連れていってくれるかもしれません。あるいは、あなたが帰国してからも周りの人に話すことのできる、ちょっとした親切な思い出をプレゼントしてくれるかもしれません。

編集部

米国国務省　2010年５月　第15巻　第５号
http://www.america.gov/publications/ejournalusa.html

米国でお会いしましょう

3　ごあいさつ
ジャニス･L･ジェイコブズ米国国務次官補（領事業務担当）
外国からの旅行者がもたらす経済的利益よりもっと大切なのは、さまざまな国の人々の間で育まれる米国への理解です。

学生のための情報

4　学生ビザを申請したい

5　学生の声（インド）
デバーチャナ･バス

6　学生の声（モロッコ）
アリ･ビアズ

7　一流校リストの問題点
バートン･ボラーグ（元クロニクル･オブ･ハイヤー･エデュケーション紙記者）
一流校リストは、米国の大学の素晴らしい多様性を反映しておらず、また、学生にとってどの学校が最適かを示してはくれません。

8　学生の声（イラン）
ロディン･ハミディ

9　学生の声（バングラデシュ）
モハマド･ナシム

観光目的の旅行者のための情報

10　観光ビザを申請したい

11　米国訪問の目的地トップ10
タナー･レイサム（元サザン･リビング誌旅行担当編集者）
海外から訪れる観光客の最も行きたい米国の目的地として、毎年のように少数の都市が挙げられますが、それにはそれなりの理由があるのです。

16　その他のお薦め目的地ベスト10
タナー･レイサム
外国から米国を訪れる多くの観光客が、盛りだくさんの魅力にあふれる都市を見逃しています。

20　ビザ詐欺に遭わないために

21　観光客の声（中国）
ワン･チェン

22　病気やけがで医療が必要になったとき

22　ビザ取得にかかる時間

23　米国のおいしいサンドイッチのトップ10
ロブ･ウォルシュ（ジャーナリスト･フードライター）
米国のさまざまな地域で、それぞれ違うタイプのユニークでおいしいサンドイッチが楽しめます。

商用目的の旅行者のための情報

26 商用ビザを申請したい

27 ビジネスマンの声（ケニヤ）
フレデリック・マシンド・オヤンジ

28 一時就労ビザを申請したい

29 専門職者の声（ナイジェリア）
エリザベス・アンチェ

予想されること

30 雰囲気の変化
ジェーン・レビア（旅行交通ジャーナリスト）
セキュリティーの向上、経済の低迷、インターネットなどによって、米国を訪れる外国人の体験が変化していますが、改善された点もたくさんあります。

32 米国内の移動
ジェーン・レビア
多くの外国人旅行者にとって、米国内の移動手段は日ごろ使い慣れているものとは違うと感じるでしょう。

33 都市間推定移動時間の例

34 空港のセキュリティーチェックを通過する
ジェーン・レビア
私の体験

35 参考資料

ごあいさつ

ジャニス・L・ジェイコブズ

外国からの旅行者がもたらす経済的利益よりもっと大切なのは、さまざまな国の人々が米国への理解を育んでいくことです。ジャニス・L・ジェイコブズは米国国務次官補（領事業務担当）。

有名なジャーナリスト、エドワード・R・マローは、「国際コミュニケーションの鎖の輪で最も重要な部分は、最後の３フィートであり、それは人が人へ語りかける個人的接触によってつなげられる」と述べています。

最後の３フィート（約１メートル）とは、国際会議でクライアントについて話し合う２人の産業界のリーダーの距離であることもあれば、国連で顔を合わせた２人の世界的指導者の距離であることもあります。もっと卑近な例で言えば、教室の学生同士の距離です。

私たちは隣り合って座ると、お互いについて貴重な知識を得ます。お互いの国の言語や文化、食べもの、さらには、お互いの国をどのように見ているかを理解するようになります。

米国は移民の国であり、世界中から訪れる人々を常に歓迎してきました。私たちは昔から知っていることを守るために全力を尽くさなければなりません。それはすなわち、わが国へやってくる最良の人々から力を引き出すと、一層強い国になるということです。

米国の大学は世界中の学生たちの留学先として抜群の人気を誇っています。また科学的研究機関や営利事業も、国境を越えて開かれた交流という環境の中で繁栄しています。私たちは、警備の強化を目指して努力すると同時に、米国にとってのこうした利点をしっかり守っていくつもりです。

私たちは、外国からの旅行者が生み出す経済効果についても知っています。2009年には、外国からの旅行者は5,490万人にのぼり、米国内に1,211億ドルを落としていきました。しかし、お金より大切なのは、滞在中にその人たちの中に育まれていく米国に対する理解だということも、私たちは知っています。米国を宣伝するための最高の材料は、米国そのものなのです。米国へようこそ！

学生ビザを申請したい

申請する前に必要なこと

大学から入学を許可されたら、ビザを申請する前に、その大学から、学生ビザか交流訪問者ビザのいずれかの取得に必要な書類（I－20かDS－2019）と、あなたを学生・交流訪問者情報システム（SEVIS）に登録する書類を送ってもらわなければなりません。SEVISは留学生の動向を把握するウェブ上の情報システムです。SEVIS登録料の支払が必要で、SEVIS登録料はほとんどの場合200ドルです（2010年５月現在）。詳細は*http://www.ice.gov/sevis/* を参照してください。

授業が始まるどれくらい前に申請すべきでしょうか

授業開始予定の120日前から申請できますが、早めに申請しましょう。手続きにかかる期間は国によって違いますが、学生ビザと交流訪問者ビザの申請手続きは優先的に扱われています。追加手続きを要するビザの発給には60日かかることもあります。

面接予約や申請手続きの待ち時間については、次のウェブサイトを参照してください。*http://travel.state.gov/visa/temp/wait/wait_4638.html*

申請するビザの種類

認可を受けた大学で学ぶ場合、または大学や語学学校で英語を学ぶ場合には、F-１ビザを申請しましょう。教育的・文化的交流プログラムに参加する場合にはJ-１ビザを、また非学術的プログラムや職業的プログラムに参加する人はM-１ビザを申請してください。詳しい情報は、*http://travel.state.gov/visa/temp/types/types_1270.html* を参照してください。

ビザ取得にかかる費用

SEVISの登録料は、F-１ビザとM-１ビザでは200ドル、J-１ビザで180ドルです。ビザ申請料は140ドル（2010年６月現在）で、払い戻しはできません。また、国によっては米国との互恵協定に基づいて、ビザ発給料を払わなければならない場合もあります。あなたの国に互恵的協定があるかどうか、次のサイトで確認してください。
http://travel.state.gov/visa/fees/fees_1341.html

ビザ申請の主な手順

まず、最寄りの大使館または領事館のウェブサイトにアクセスして、ビザ申請の面接予約を取りましょう。（*http://www.usembassy.gov/* を参照）

面接に際しては次の書類をそろえておいてください。（１）有効期限が滞在期間を上回るパスポート、（２）必要事項を正確に記入したビザ申請書（DS-160、オンラインで作成）の確認ページを印刷したもの、（３）受け入れ先の教育機関から発行されたビザ適格書類（I-20またはDS-2019）、（４）SEVIS登録料の領収書、（５）DS-160申請書で提出していない場合、５cm×５cmの写真。（注意：面接を申し込む前に、申請書に全ての必要事項を記入し、申請料を払っておかなくてはなりません。*http://www.usembassy.gov/* にアクセスして、あなたの国に関連する独自のビザ情報を調べてみてください）

面接に際しては、受け入れ校に関する十分な知識と、きちんと検討された勉学・研究プランを持ち、学ぶ科目について知っているまじめな学生であることを、面接官に伝えられなければなりません。また自国に帰国する予定であることも証明しなくてはなりません。そのためには、米国に住居を持たず、当面祖国を捨てるつもりはなく、勉学・研究を終え次第、米国を出る予定であること、留学の最初の１年間を賄うのに十分な資金を持っていることを証明する必要があります。

なお次のウェブサイトも参考にしてください。
Campus Connections
http://www.america.gov/publications/ejournalusa/0809.html
College and University Education in the United States
http://www.america.gov/publications/ejournalusa/1105.html
日本語版「米国の大学教育」
http://aboutusa.japan.usembassy.gov/j/jusaj-translations-ejournals.html#CollegeandUniversity

学生の声（インド）

デバーチャナ・バス

Courtesy of Purdue Marketing and Media

パデュー大学のローブ噴水。後方にユニバーシティーホールが見える

デバーチャナ・バスはインディアナ州のパデュー大学で言語学を専攻するインド出身の留学生。

パデュー大学から入学許可通知を受け取ったときには天にも昇る気持ちでしたが、そのうれしさはすぐに苦悶の戦慄に取って代わられました。朝早くインドのコルカタにある米国領事館に出向いて面接を受けるという恐ろしい最終段階が待っていたからです。米国の一流大学で高等教育を受けるという夢を実現するためには、生まれて初めての国際線の飛行機に乗る前に、まずこの最終段階をクリアしなければなりませんでした。

１カ月間、あたふたと荷造りをし、家族や友人と別れを惜しんだあと、８月のよく晴れた日の午後、私は２つの大陸と１つの大海を越える22時間の旅を終えて、目を大きく見開き、圧倒された気分で、疲れてはいるものの胸を躍らせながら、シカゴのオヘア国際空港に降り立ちました。

あれから７年たった今、わたしは立派な学位と最良の学術専門教育を獲得して世界に戻り、さらに歩みを進めようとしているところです。それだけではなく、私は人生にとってはるかに大切な教訓を学びました。それは、責任を遂行し、成長し、自分自身を発見し、自分が何者であるかを知るために自分を磨くことです。米国での大学生活は、最高の学問のみならず、誠実で率直な、そして社会的関心を持った世界市民になるための刺激を与えてくれました。

パデュー大学の言語学プログラムにおいて、教職員の方々や同僚研究者たちの惜しみない支援と励ましのおかげで、私は最先端の研究施設や図書館を利用し、この分野の優秀な研究者たちと交流し、思想の自主性を実践し、独創的アイデアを追究するという幸運に恵まれました。学部の学生たちを教え、若い人たちの潜在能力を探ったことも、やりがいのある体験でした。

長年にわたる大学院生活では、いろいろな体験をしました。アパートのルームシェアから１人暮らしへの移行、新しい友だち、履修科目をぎっしり詰め込んだ学期、真夜中の誕生祝いなどなど。忘れ難い初体験もたくさんあります。特に思い出として残るのは、学部学生に教える講師としての初日、初めての学会発表、初めてのクレジットカード、初めてのラップトップ（あとから請求書が！）、運転免許証、初めてのシカゴへのバス旅行、ネービーピアで見たミシガン湖畔の花火、初めての自分の車、中国料理のビュッフェやスシ、初めての雪（とスノーブレーディング）、そしてスターバックスに初めて入ったこと。故郷を遠く離れて居を構えるうちに、新しかったやり方は習慣へと変わりました。今までのところ、旅はいろいろな出来事に満ち、さまざまな貴重な体験をしてきました。

その飛行機に乗ることを夢見ているあなた、シートベルトをしっかり締めて。冒険はまだ始まったばかり。そして、とても素敵でやりがいのある冒険が果てしなく続きますよ。幸運を祈ります。よい旅を！

次のサイトも参照してください。

- Campus Connections（*http://www.america.gov/publications/ejournalusa/0809.html*）
- College and University Education in the United States（*http://www.america.gov/publications/ejournalusa/1105.html*）

日本語版「米国の大学教育」
（*http://aboutusa.japan.usembassy.gov/j/jusaj-translations-ejournals.html#CollegeandUniversity*）

- U.S. Department of State Student and Exchange Visitors（米国国務省・学生・交流訪問者）（*http://travel.state.gov/visa/temp/types/types_1270.html*）

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

学生の声（モロッコ）

アリ・ビアズ

© Jon Arnold Images/DanitaDelimont.com

カリフォルニア大学バークリー校のキャンパス

アリ・ビアズはフランス在住のモロッコ人。カリフォルニア大学バークリー校で金融工学の修士号取得を目指している。

私はカリフォルニア大学バークリー校の最初の２週間で、予期せぬ、面白いシチュエーションや、時には恥ずかしくなるようなことも体験しました。そのいくつかをここに紹介しましょう。でも、まずその前に、米国への留学を計画している外国人のために、アドバイスをさせてください。

最初のアドバイスは、予定どおりの日程で勉強を始められるように、授業開始の少なくとも２カ月前にはビザを申請しておくことです。私自身、苦い経験を通してこの教訓を学びました。学生ビザの申請がほんの少し遅れただけで、残念ながら２週間分の授業を逃してしまったからです。

２番目のアドバイスは、現地に来る前に天候をチェックすること！　私はてっきり、カリフォルニアは１年中日が照っていると思い込んでいたので、上着やセーターはみんなパリに置いてきました。これがとんでもない大誤算！　バークリーに着いてから１週間は、ほとんど毎日雨ばかり降っていました。

こういう不運な出来事も、すぐに忘れてしまったことを認めざるを得ません。バークリーでの生活は非常に心地よく、パリやラバトに比べ、物事が何もかも楽に運ぶのです。例えば、私は24時間のうちに、銀行口座を開き、携帯電話の加入手続きをすませ、アパートを借りる契約をしました。

その上、ほとんどの店が日曜日も営業しています。これはとても実際的なやり方だと思いますが、私にとっては全く異例なことです。

バークリーのキャンパスに関しては、素晴らしいの一言に尽きます！　広大なキャンパスの中に、さまざまな学部の建物、図書館、最先端テクノロジーを備えたコンピューター室、巨大なスポーツ施設などがあります。

最初にびっくりさせられたのは、授業に遅れてくる学生がいることです。授業中でも平気で教室を出たり入ったりするのです。フランスでは学生が教師の授業に敬意を払っていますから、遅れないように来て、講義が終わる前に教室を出ていったりはしません。

カリフォルニアの人々に関して言えば、おおむね、親切で偏見がなく、話し好きですが、私はまだここの人たちの習慣にすっかりなじんではいません。実際、フランスでは友だちと毎日握手するのが当たり前だし、モロッコでは１日に何回も握手します。バークリーに着いて２日目、その前日に会ったクラスメートと握手すると、「おれたち、もう会ってるよね」と言われてしまいました。

もう１つ、初めて出たパーティーでのおかしな話。前にも会ったことのある女性が近づいてきて、私を抱き締めました。モロッコやフランスではよく、あいさつ代わりのキスをしますが、私は彼女もそうしたいのだろうと思いました。だから彼女にキスをしたのですが、彼女はちょっと困っているように見えました。

私はこれまでのところ素晴らしい体験をしているので、どの学生にも米国の教育プログラムに参加することを勧めたいと思っています。

次のサイトも参照してください。

- Campus Connections（*http://www.america.gov/publications/ejournalusa/0809.html*）
- College and University Education in the United States（*http://www.america.gov/publications/ejournalusa/1105.html*）

日本語版「米国の大学学部教育」
（*http://aboutusa.japan.usembassy.gov/j/jusaj-ed-studyusa1.html*）

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

一流校リストの問題点

バートン・ボラーグ

一流校リストは、米国の大学の計り知れない多様性を反映しておらず、また、学生にとってどの学校が最も適しているかを示してはくれません。バートン・ボラーグは元クロニクル・オブ・ハイヤー・エデュケーション紙記者。

米国には正式に認可された大学やその他の高等教育機関がおよそ4,000あります。大規模な研究を行う総合大学から、小ぢんまりとした温かい雰囲気のリベラルアーツ系単科大学まで、実に多種多彩な教育を提供しています。世界中の学生たちがどの国よりも米国に引きつけられるのは、こうしたことも一因になっている、と国際教育研究所（米国と他の国との双方向の学生交流を促進する非営利団体）のアラン・E・グッドマン所長は語っています。

「米国のエリート教育プログラムは世界のトップレベルにあるけれども、米国の高等教育システムの他に類を見ない長所は、その多様性にあるのです」とグッドマン所長。

どの教育機関が優れているか、その順位を示す公式のランク付け方式はありませんが、雑誌や団体が独自にまとめる非公式の格付けがいくつかあります。しかし教育専門家たちは、こうした格付けリストを利用することに警鐘を鳴らし、ある学生にとって最適の選択が別の学生にとっても最適とは限らないと力説しています。

米国にはあらゆるタイプの教育機関が広く分散して存在しています。ニューヨークやシカゴやロサンゼルスなどの、大都市の刺激と豊かな文化的活動を与えてくれるキャンパスがいいという学生もいるでしょう。一方、田舎ののどかさや美しさが好きな学生は、静かな森と雪の冬を楽しめる北東部か、亜熱帯のフロリダか、乾燥した大地が広がる西部か、海岸のそばに山のある太平洋沿岸を選ぶかもしれません。

バスケットボール、アメリカンフットボール、テニスなどのスポーツ教育プログラムの充実した大学もあります。あるいは、損なわれていない自然や、水泳やヨットを楽しめる海や湖に近い大学もあります。

特定の学問分野に強いという教育機関も多く、そうした分野に興味のある学生に適した選択肢となるでしょう。

米国ではしばしば、カレッジ（主に単科大学）とユニバーシティー（総合大学）という呼び方が、区別のない交換可能な用語として使われていますが、一般的にカレッジはユニバーシティーより小規模で、主として学士号を授与するのに対して、ユニバーシティーは大学院の学位も授与します。決してカレッジがユニバーシティーより劣っていると考えられているわけではありません。

総合大学には公立もあれば私立もあります。私立で非営利の総合大学の中には、ハーバード、プリンストン、エールなどの有名校も含まれます。公立の総合大学は、50州の１つや一部の都市によって創設され、助成金を交付されています。公立校は（学生数が２万人を超える）大規模な大学が多く、概して私立校より学費は安くすみますが、州外や外国から入学する学生の学費は、地元の学生より高くなります。

総合大学では、教授は最先端の研究に携わっているかもしれません。しかし、学部のクラス、とりわけ１年生と２年生のクラスは大人数になりがちで、教授ではなく大学院生が教えることもあります。

リベラルアーツカレッジになると、クラスは少人数で、教授が学生と過ごす時間も増える傾向にあります。

テクノロジー、アートやデザイン、医療といったように、特定の専門分野に特化した大学もあります。その多くは私立校です。

特定の宗教的伝統と関連のある大学も数百校ありますが、そのほとんどが、宗教的背景を問わず学生を受け入れています。米国にはまた、歴史的に黒人のために開かれた大学が数十校あり、学生の大部分がアフリカ系米国人です。

コミュニティーカレッジは幅広い分野で２年間の学位課程を提供しており、中には集中英語教育を実施しているところもあります。そこでは最も費用のかからない中等後教育を受けることができます。首尾よくコミュニティーカレッジの課程を終了した学生は、多くの場合、４年制の大学に編入して勉強を続けられます。

Campus Connections（*http://www.america.gov/publications/ejournalusa/0809.html*）も参照してください。

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

学生の声（イラン）

ロディン・ハミディ

Courtesy of Democracy Video Challenge

ヒラリー・クリントン国務長官からデモクラシー・ビデオ・チャレンジ賞を受けるロディン・ハミディ

ロディン・ハミディは、2009年度デモクラシー・ビデオ・チャレンジ賞の受賞者６人の１人。ドバイ在住のイラン人で、ニューヨークにあるアートスクール数校に入学許可を出願している。

私は初めて米国を訪れてからわずか２日間で、米国の本当の名前を発見しました。すなわち「チャンスの国」という名です。大ヒットした複数のハリウッド映画に多くの影響を受けながら、私はいつも頭の中で米国のイメージを描いてきてはいましたが、でも、まさか本当に米国を旅する日が来ようとは考えもしませんでした。

2009年９月、ついに、願ってもない状況で米国を訪れるチャンスが巡ってきました。この年、世界各国から選ばれた６人のデモクラシー・ビデオ・チャレンジ賞受賞者の１人として、米国国務省の費用負担で米国へ行けることになったのです。この旅行は、いくつかの主要都市を訪れてさまざまな文化的背景を持つ人々に会うチャンスを与えてくれましたが、中でも最も心が躍った瞬間は、ヒラリー・クリントン国務長官から賞を受け取ったときでした。

若いアーティストとしてずっと夢見てきたことは、アートの中心地とされている都市、素晴らしいビッグアップル、ニューヨークに行くことでした。ニューヨークに着いたとき、そこは自分の想像したとおりの街だと実感しました。すぐに、この街に住みたい、自分の時間の全てを最大限ここで活用したいと思いました。そこで、ニューヨークにあるいろいろな大学やアート系専門学校を調べ始めました。私は前々から、もっとアートや映画の勉強を続けて、高いレベルの教育機関で芸術の修士号を取りたいと思っていましたが、ニューヨークにはそういう学校が、私の住んでいるドバイのショッピングモールの数ほどもあるのです。次にやるべきことは、さまざまな書類や自分の代表的作品集、成績証明書などをそろえることでした。私の志望するアートスクールの１校１校に、そうした多数の書類の提出が必要だったからです。

外国人の学生がやるべきことは、専門学校や大学に願書を提出して、やきもきしながら返事を待つだけではなく、ビザの申請もしなければなりません。私はイラン国籍なので、出願したある大学から個人面接に来るよう要請されたとき、面接に間に合うように米国行きのビザを取ることは不可能で、チャンスを逃してしまうだろうと観念しました。

困惑や絶望、先の計画が立てられないという思いで、興奮したり落ち込んだりすることもよくあります。志願者は多くの時間とエネルギーを使って出願手続きに希望を託し、大学の当局者や教授会は、各志願者に入学資格を与えるかどうか、時間をかけて判断しようとします。しかも、解決すべき大きな問題がほかにもあります。もし入学を許可されたとして、そのための資金をどうやって調達するのか？果たしてそれだけの大金をかける価値があるのか？

留学費用は目がくらみそうなほど高い。とりわけ、米国民ではない者にとっては、生活費や学費に加えて、旅費も計算に入れなければなりません。あなたとあなたの夢は、こうした問題に直面しているのです。

もう一度、気持ちを落ち着けて、鏡を見て笑顔をつくり、きっと道はあるという信念を持ち続けましょう。重要なのは、どんなに苦労しようと自分を見失わないこと、どんなことをやるにしても前向きでいること。これが、自分の将来の道が他人によって決められるのを待つ間に、私の学んだ最大の教訓です。

デモクラシー・ビデオ・チャレンジについては、次のウェブサイトをご覧ください。

http://www.videochallenge.america.gov/

http://youtube.com/democracychallenge

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

学生の声(バングラデシュ)

モハマド・ナシム

Courtesy of the University of Texas at Dallas

テキサス大学ダラス校の経営管理大学院の建物

バングラデシュのモハマド・ナシムは、テキサス大学ダラス校で財政学の修士号取得を目指して勉学中。

留学にしろ観光にしろ、あるいは仕事のためにしろ、米国を訪れることは私の長年の夢の１つでした。しかし、それは自分の国の都市から都市へ移動するようなわけにはいきません。渡米するためには、いくつかのステップを踏む必要があります。米国行きを最終決定する前に、用意周到な計画を立て、適切な書類をそろえておかなければなりません。

最初のステップは、自分の国の米国領事館でビザを申請することです。ビザには、学生ビザ(Ｆ１)、短期訪問者ビザ(Ｂ１/Ｂ２)、就労ビザ(Ｈ１Ｂ)などいろいろな種類があるので、渡航目的に合ったビザを申請しなければなりません。この手続きは非常に厳格で、領事館でいくつかの書類に必要事項を記入して提出した上で、領事担当官と面接し、証拠となる有効な書類を提示して渡航理由を説明しなければなりません。

必要書類や、たいていの場合担当官に提示を求められる書類としては、有効なパスポート、銀行取引明細書、入学許可書(学生の場合)、就労許可書(就労者の場合)などがあります。ビザの申請にはさらなる管理上の手続きや保安審査が追加されることもあるので、事前に十分な時間的余裕をもって申請しなければなりません。こうした追加手続きは非常に長い時間を要することがあり得ます。

私は2010年１月11日からテキサス大学ダラス校で勉強を始める入学許可をもらいました。大学から入学許可書とI-20を受け取るとすぐに、その他の関係書類を準備して、2009年12月の最後の週に学生ビザを申請しました。授業開始まで２週間しか残されていませんでした。ビザ申請の面接が終わったあと、私の申請書類は追加の管理手続きに回されました。その手続きには２週間以上はかからないだろうと思っていました。この手続きに長い時間がかかる可能性があるとは知らなかったのです。手続き完了まで２カ月半かかり、ようやく学生ビザが発給されました。大使館がこの手続きのプロセスを省いたり早めたりすることはあり得ないのです。

幸いなことに、私は随時自分の置かれた状況を教授に報告し、遅れて授業を受ける許可を得ていました。

第２のステップは航空券の購入です。旅行シーズンのピーク時にはチケットを手に入れにくくなります。旅行者は米国に到着したら、空港その他の通関手続き地で、税関国境警備局の係官と対面しなければなりません。渡航者の米国入国を認めるかどうかの最終決定権は、この係官にあります。２次的な審査が行われる場合も多く、空港の外に出るまでに数時間かかることもあります。

私の場合、授業開始から２カ月も遅れて米国に入ろうとしていたので、とても心配でした。しかし、教授から許可の手紙をもらっていたので、それを通関手続き地の係官に見せました。結局、何のトラブルもなく無事に入国できたのは、証拠として有効な書類を全て持っていたからなのです。

近い将来米国へ行こうと計画している人たちに対して、私からアドバイスできることは、ビザは十分な時間的余裕をもって早めに申請すること、必要にして有効な書類を全て持参すること、領事担当官との面接や通関手続き地においては自信を持って正直に話すことです。そうすれば、米国への旅は快適かつ順調なものとなるでしょう。

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

観光ビザを申請したい

どういう人が観光ビザを申請するのですか

渡米の目的が（１）レクリエーションの場合（観光、友人・親族の訪問、文化・スポーツなどのイベントへの無報酬の参加、その他の娯楽的理由）、あるいは（２）米国で治療を受けたい場合、観光ビザ（B-２）を申請します。

ビザ免除プログラム（VWP）の参加国の国民で、米国滞在期間が90日以下の旅行者は、ビザを申請する必要はありません。それ以外の旅行者は電子読み取り装置で読み取り可能なEパスポートを所持していなければなりません。新しい規則により、VWP参加国の旅行者は電子渡航認証の申請を義務づけられています。詳しくは次のサイトをご覧ください。*http://travel.state.gov/visa/temp/without/without_1990.html#epassport*

旅行開始のどのくらい前に申請したらいいですか

旅行予定の少なくとも２カ月以上前には申請してください。ビザ申請のための面接、ビザ申請手続き、管理上の追加手続き（まれに必要）を処理するには、これだけの時間がかかるのです。待機時間は大使館によって違います。またシーズンによっても違うことがあります。例えば、米国の夏季（６月から８月まで）に旅行を希望する申請者が多いので、その時期は待機時間がさらに長くなるかもしれません。各国の事情については次のサイトをご覧ください。*http://travel.state.gov/visa/temp/wait/wait_4638.html*

観光ビザ（B-２）申請の主な手順

まず、あなたの国の大使館または領事館で面接を受ける予約を取ります。次に、ビザ申請料を支払い、あなたの国で義務づけられているビザ申請書に記入してください。申請書はオンライン申請書DS-160が一般的です。申請書の書式は*http://travel.state.gov/visa/forms/forms_1342.html*でダウンロードできます。（注意：ほとんどの国では、面接予約の前に申請書の記入を済ませ、申請料を払っておかなければなりません。各国のビザ取得についての詳細は*http://www.usembassy.gov/*で確認してください）

面接に際しては、（１）有効期限が滞在期間を超えているパスポート、（２）面接予約確認書、（３）記入済みのビザ申請書、（４）ビザ申請料の領収書、（５）５cm×５cmの写真を持参してください。

さらに、渡米の理由、訪問終了後は米国を出国する意思があること、旅行費用を賄うのに十分な資金があることを示す証拠書類を持参しなければなりません。このほかにも必要な書類があるかどうか、米国大使館に確認してください。

病気治療のために渡米する場合には、さらに次のような書類も提示しなければなりません。（１）米国での治療を必要とする理由を説明した主治医の診断書、（２）あなたの現在の病気を治療する意思があること、治療の種類、予想される治療期間と治療費が詳細に明記された、米国の医師または病院からの書状、（３）渡航費、医療費、および滞在費を支払う者を示す書面（全ての費用の支払い能力があることを証明する書類を含む）。

ビザ取得にかかる費用

ビザ申請料は140ドル（2010年６月現在）です。払い戻しはできません。米国との互恵協定に基づいて、ビザ発給手数料を課せられる国もあります。互恵協定の料金が発生するかどうかは、*http://travel.state.gov/visa/fees/fees_1341.html*で確認してください。

観光または治療目的の渡米についての詳細は、次のウェブサイトをご覧ください。*http://travel.state.gov/visa/temp/types/types_1262.html*

米国訪問の目的地トップ10

タナー・レイサム

Vincent Hughes

海外から訪れる観光客の最も行きたい米国の目的地として、毎年のように少数の都市が挙げられますが、それにはそれなりの理由があるのです。タナー・レイサムは元サザン・リビング誌旅行担当編集者。

海外から米国にやって来る訪問者（カナダとメキシコからの入国者を除く）は年間数千万人にのぼりますが、その大半がほとんどの時間を、以下、人気順に紹介する「目的地トップ10」で過ごしています。この中には、喧騒に飛び込みたいという人向きの場所もあれば、喧騒から逃れたいという人のための場所もあります。

ニューヨーク

ニューヨークにはウォールストリートがあり、劇場地区があり、エンパイアステートビル、自由の女神像、世界最高クラスの美術館があって、世界各国の食べ物が屋台で売られています。ここは世界の注目が集まる街。ニューヨークにレストランを開いているどのシェフも、コレクションを発表するどのデザイナーも、画廊に作品を展示するどのアーティストも、ビッグアップルの街中を通り抜ける興奮のざわめきを感じています。旅行者たちは、タイムズスクエアの大仰なけばけばしさの集中攻撃にさらされたり、ユニオンスクエアパークでアーティストの手作りの品をやんわりと売り込まれたりしながら、この街のそんなエネルギーを吸収することを楽しみます。

http://www.nycgo.com

ロサンゼルス

ロサンゼルスには有名な地区がいろいろありますが、その中で２つの地区がロサンゼルス最大の特徴となっています。１つは、華やかな魅力にあふれ、超有名人たちの名声が垣間見られるハリウッド。ここでは世界で最も有名なスターたちに出くわ

© Shutterstock Images

© Rene Mattes/Hemis/Corbis

© John Brown/Photolibrary/Getty Images

© AP Images/Phelan M. Ebenhack

© Josh Anon/Jaynes Gallery/DanitaDelimont.com

(左上)ニューヨークの自由の女神像とロウアーマンハッタン
(右上)ロサンゼルスのユニバーサルスタジオ
(左中)マイアミビーチの救助員詰め所
(右中)オーランドの近くにあるディズニーワールドのマジックキングダム
(下)サンフランシスコのゴールデンゲートブリッジ

します。セレブとのつかの間の出会いを楽しめるのは、ロデオドライブやサンセットストリートを歩いているときや、歴史的に有名なグローマンズ・チャイニーズシアターの前で写真を撮っているとき。こうした界隈と対照をなすのが、ベニスビーチののんびりしたライフスタイルです。ここのオーシャンフロントウォークには、身分や階層や分野を問わずいろんな人が集まってくるので、人間観察にはもってこいの場所です。

25頁の「ロサンゼルスのフレンチディップ」、および*http://www.discoverlosangeles.com* も合わせてご覧ください。

サンフランシスコ

サンフランシスコは太平洋から吹いてくる風が特徴の街です。住民でも旅行者でも、その日の行動を決めるときには天候に大きく左右されます。晴れた日には、多少空気がひんやりしていてもゴールデンゲートパークに人気が集まります。この公園には、遊歩道やのんびりくつろげる砂浜があり、有名なゴールデンゲートブリッジの景観も楽しめます。霧の多い日には、チリンチリンと鐘を鳴らしながら走るケーブルカーに乗り、街の中へ繰り出してみたり、建築見学ツアーを計画するのもいいかもしれません。特に、写真や映画によく登場する、急勾配の坂に並ぶビクトリア朝様式やエドワード朝様式の住宅「ペインテッド・レディーズ」はお薦めです。

http://www.onlyinsanfrancisco.com

マイアミとマイアミビーチ

アップテンポのダンスミュージックのように、マイアミとマイアミビーチは昼夜を問わず絶え間ないリズムで脈動しています。太陽の降り注ぐサウスビーチには、優雅な上流階級の人々もやってきますし、浜辺に並ぶアールデコ調の救助員詰め所も見ものです。日が暮れた後のオーシャンドライブは、赤や緑や青やピンクの明るいネオンに彩られ、地球上の他のどこにも見られない、おしゃれでシックな場所に変身します。料理をはじめ、街の至る所にヒスパニック文化の影響が見られ、例えばリトルハバナでは、人々はカリェ・オチョ（８番通り）で葉巻をくゆらせ、ドミノに興じながら、スペイン語で陽気にからかい合っています。

24頁の「フロリダ・キューバンサンドイッチ」の項も参照してください。

http://www.miamiandbeaches.com

オーランド

大オーランド地域は究極の娯楽王国。そこには奔放な想像力が駆け巡っています。どんなに想像力豊かな人でも、ここのユニバーサルスタジオのテーマパークや、ディズニーワールドなどのディズニーブランドの人気スポットで盛り上がっているような世界を思いつくことはできないでしょう。しかし、オーランドは夢やファンタジーや着ぐるみキャラクターのあふれる土地というだけではありません。ダウンタウンに行けば、ビクトリア朝様式の建物と超高層ビルがうまく溶け合った建築の妙味が見られます。この地区では、ブティックでの買い物や多種多様なレストラン、急成長を遂げているナイトライフも楽しめます。自然に親しみたいなら、レイク・エオラ・パークの湖畔を一周するループ状の遊歩道を散策するのもいいでしょう。

http://www.orlandoinfo.com

ラスベガス

ラスベガスは街全体がパーティーです。こうこうと輝く照明と、退廃的でどぎつい建物があふれている、大人のための巨大テーマパークを想像してみてください。ラスベガスストリップを歩くだけで、そのイメージが目の前に現れ出ます。高く舞い上がる噴水、レーザー光線のディスプレー、大金を賭けるカジノ、出演者たちが完璧な振り付けや演出で見せるバラエティーショーに至るまで、何でもそろっています。この街に来たら睡眠は一番後回しになります。もうちょっと派手じゃないベガス体験を、という人はフレモントストリートのダウンタウンへどうぞ。ここにはもっと昔懐かしい雰囲気の漂っているカジノがたくさんあります。

http://www.visitlasvegas.com

ホノルル

ホノルルは、ビジネスや美術館やフォスター植物園（ピクニックに最適）など活気に満ちたスポットがたくさんある大都会ですが、ハワイのオアフ島の旅の起点として最もよく知られる街です。観光客がよく行くのはワイキキ。美しい浜辺で泳いだり、買い物をしたり、レストランに入ったり、サーフィンのレッスンやカタマラン（双胴型ヨット）のセーリングなどいろいろなアウトドア活動を楽しめるからです。サーフィンについて言えば、地元の人でも旅行者でも、大抵のサーファーはノースショアの海岸の町ハレイワの海でボードに乗ります。米国海軍の歴史に関心のある人々は、1941年12月真珠湾攻撃の犠牲者の慰霊碑となっている戦艦アリゾナ・メモリアルや、1992年に退役した戦艦ミズーリを訪れます。

http://www.gohawaii.com

© AP Images/J. Scott Applewhite

ワシントンD.C.上空の満月に照らされたリンカーン記念堂（手前）、ワシントン記念塔（中央）、米国議会議事堂（後方）

ワシントン

ワシントンD.C.には米国の精神が全て包摂されています。ここに来れば、歴史の集積と米国の誇りを発見し、米国の政治機構がざわざわと音を立てながら休みなく回り続けていることを実感できます。この街にはスミソニアン航空宇宙博物館やナショナルギャラリー（米国国立美術館）など米国の代表的美術館や博物館が数多くあります。また昔から都会でありながら緑地や自然環境が守られてきました。ポトマック川の真ん中にひっそり横たわるルーズベルト島の遊歩道を散歩すれば、驚くほどの静寂に出会います。そしてもちろん、この街随一の名所は米国の前庭とも言うべきナショナルモールです。芝生の上に毛布を広げて、この国の重要な指導者たちをたたえる記念碑に囲まれながら、ゆっくりくつろいでください。

http://www.washington.org

シカゴ

シカゴは米国の中西部最大の都市。プロスポーツのチームや世界最高級のレストラン、素晴らしい建築物で知られています。別称はいろいろありますが、「地区（ネイバーフッド）の街」というのが一番ふさわしいかもしれません。ノースサイドのアンダーソン地区からサウスサイドのハイドパーク地区まで、それぞれに個性のある地区が70以上あります。ミシガン湖畔にあるシカゴは、旅行者にとってはショッピングが楽しみな街でもあり、とりわけミシガンアベニュー沿いの「マグニフィセント・マイル」にはブティックやデザイナーの店が集中しています。

http://www.explorechicago.org

ボストン

ボストンはまさしくニューイングランドの宝石です。この街との出会いは、大胆な首飾りのように連なっている公園の１つから始めるのがベストかもしれません。例えば家族向きのフロッグ池のあるボストンコモン。隣接するパブリックガーデンにも池があり、白鳥の形をしたボートは1870年代から池を周遊しています。米国史に重要な役割を果たした栄誉ある都市ではありますが、決して過去だけに目が向いているわけではありません。例えば、ファニエルホールは米国独立戦争の前夜、独立派の有名人が雄弁な演説を行った場所ですが、今ではたくさんの店舗やレストランを収容するショッピングセンターとして定着しています。ボストン茶会事件の舞台となったボストンハーバーは、ウォーターフロントの遊歩道「ハーバーウォーク」が人気の観光名所となっています。

25頁の「ニューイングランド・ロブスターロール」もご覧ください。

http://www.bostonusa.com

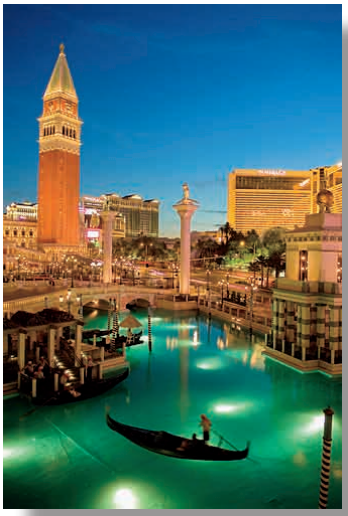
次のサイトも参照してください。

- Snapshot USA
  http://www.america.gov/publications/ejournalusa/0606.html
- Outline of American Geography
  http://www.america.gov/publications/books/outline-of-american-geography.html
- USA Map with Facts in Brief
  http://www.america.gov/publications/books/usamap.html

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

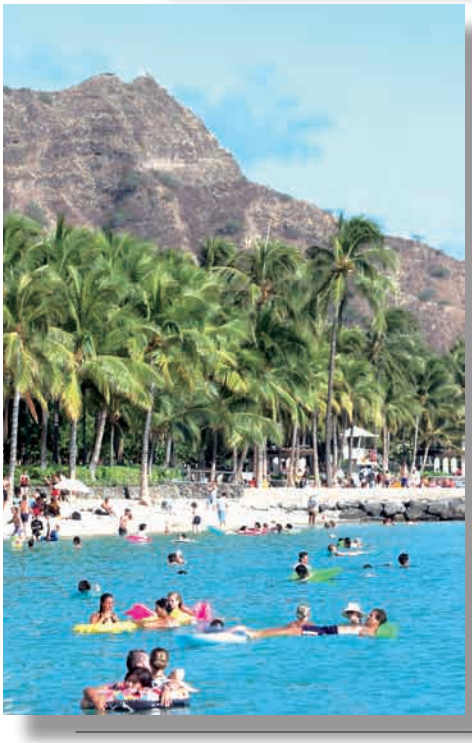
Courtesy of Tim Brown

© AP Images/Michael Dwyer



© Richard Nowitz/National Geographic Stock

© George Rose/Getty Images



© AP Images/Lucy Pemoni

(左上から時計回りで)ワシントンD.C.のタイダルベイスンに咲く日本生まれの桜
(右上)ボストンハーバーに停泊する軍艦「コンスティチューション」(1797年進水)
(右下)シカゴの巨大彫像「クラウドゲート」
(左下)ホノルルのワイキキビーチ
(左中)ラスベガスのベネチアンリゾートホテルカジノ

その他のお薦め目的地ベスト10

タナー・レイサム

外国から米国を訪れる多くの観光客が、さまざまな魅力にあふれる都市を見逃しています。「米国訪問の目的地トップ10」(11頁参照)に加えて、ここではその他のお薦め10都市を紹介します。タナー・レイサムは元サザン・リビング誌旅行担当編集者。

米国には海外からの旅行者に人気のある10都市のほかにも、魅力的な街がたくさんあります。どの地域でも、おいしい食べ物やアートや音楽や、わくわくするような歴史に出会えるはずです。こんな街にもぜひ足を延ばしてみてください。

フィラデルフィア

米国初期の歴史的逸話の多くは、ペンシルベニア州フィラデルフィアの名所見学ツアーを通して語られます。例えば独立記念館は、独立宣言や米国憲法が討議された場所で、言い伝えによると、「自由の鐘」を打ち鳴らして市民を招集し、新しく採択された独立宣言が朗読されたそうです。しかし、この街の歴史地区の中にさえ、現代の文化的アトラクションや、地元出身アーティストたちの作品を集めたギャラリーがあります。フィラデルフィアの建築には18世紀や19世紀の様式と現代的構造が混ざり合っています。この街の大きな魅力の１つは、いろいろな所へ歩いていけることで、ほとんどの観光名所がおよそ2.5平方キロメートルの徒歩圏内にあります。

24頁の「フィリー・チーズステーキ」の項も参照してください。

http://www.philadelphiausa.travel

アトランタ

アトランタは南部風の温かいもてなしの心にたくさん触れることのできる都会です。この街では、物事が着実なペースでしっかりと進んでいますが、暑い午後においしいアイスティーの１杯も味わえないほど速いペースではありません。ここは南部の交差点、いや米国の交差点だと言う人もいるかもしれません。なにしろ、世界中で最も乗降客が多い空港のある街ですから。その影響は料理や文化の豊かな国際性となって表れ、ジョージア州の中心でこんなものに、と出くわした旅行者をびっくりさせることでしょう。観光名所には、スイートオーバーン地区のマーチン・ルーサー・キング・ジュニア国定史跡、ジミー・カーター図書館・博物館、名作「風とともに去りぬ」の原作者が住んでいたマーガレット・ミッチェル・ハウス博物館などがあります。

http://www.atlanta.net

シアトル

シアトルと言えば、ほとんどの人が清潔で緑の多い街を思い浮かべます。この街の自慢は、米国有数の「環境に優しい都市」として評価され続けていることです。年間降雨量が多いので、公園や自然緑地はいつも生き生きしています。観光客に人気の高いスポットはパイクプレイスマーケット。昔から続いている米国最古の直売市場の１つで、ストリートミュージシャン、アンティークの店、土産物屋、カフェ、魚売り場(店員が魚を放り投げるので有名)が市場の魅力的な雰囲気を盛り上げています。ほかに人気があるのは、1962年万博のために開発された30ヘクタールの都市公園シアトルセンターにそそり立つスペースニードル、多くの画廊や美術館が同居する20ブロックのビクトリア朝ロマネスク様式建築のパイオニアスクエア。

http://www.visitseattle.org

アッシュビル

ブルーリッジ山脈を背景にして、ゆったりとしたライフスタイルを保っているノースカロライナ州アッシュビルは、ミシシッピ川の東に位置する大きな山間の町です。ここを訪れる人々は地元産の野菜や肉を使ったヘルシーな食事に迎えられます。料理を完璧にするのは強力な地ビール産業。醸造所は最高のエール、ピルスナー、ポーターを提供しようと競い合っています。小ぢんまりした店が並ぶダウンタウンの通りは、起伏はあるものの散歩にはうってつけです。また、つつましい地域に囲まれて優雅な姿で横たわっているのは、米国最大の個人所有の屋敷、ビルトモア・エステートです。19世紀に建てられ、部屋数が250もあるフレンチルネサンス様式の大邸宅で、見学者に開放されています。毎年７月に市の主催で開かれるお祭り「ベル・シェール」(古いスコットランドの方言で「美しい生き方」)は、音楽とアートの南部最大のストリートフェスティバルです。

http://www.exploreasheville.com

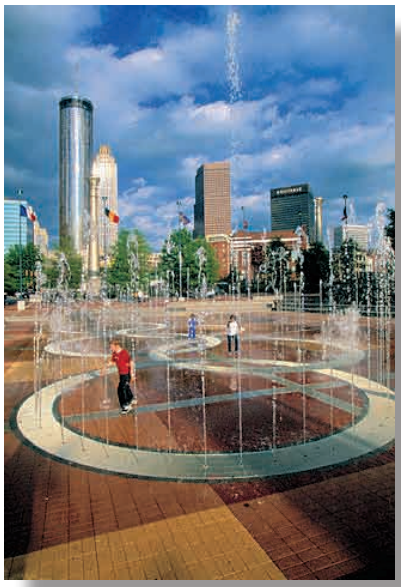
オースチン

テキサス州オースチンは驚くほど多様性に富んだ都市です。

© AP Images/Elaine Thompson

© AP Images/Jessica Griffin

© Susan Pease/DanitaDelimont.com



© Walter Bibikow/Corbis

© Will van Overbeek/National Geographic Stock

(左上から時計回りで)シアトルのスペースニードルのそばで、凧を飛ばす人
(右上)フィラデルフィアの「自由の鐘」と独立記念館
(右中)アトランタのセンテニアルオリンピック公園
(下)オースチンのジョビタズ・レストランで演奏するコーネル・ハード・バンド
(左中)アッシュビルの近くのビルトモア・ハウス

どこの店舗やレストランでも、あるいはどこのライブハウスの列でも、入れ墨をしたロックミュージシャンに混じって、ブーツをはいた本物のカウボーイに出会います。伝統的な政治家もいて（オースチンはテキサス州の州都です）、前衛画家と同じようにテキサス風メキシコ料理店で舌鼓を打っています。この街に活気とエネルギーを補給し続けているのがテキサス大学オースチン校です。そしてサウスコングレス・アベニューに行けば、デザイナーズホテルや民芸品店と並んで、米国屈指のライブ音楽シーンに出会えるでしょう。この美しい都市は素晴らしい自然環境にも恵まれています。この豊かな自然を楽しむには、貯水池タウンレイクで水上スポーツをするのが１番よいでしょう。ひょっとすると、オースチン湖のレストランのパティオから夕日を眺めるのが、オースチンの真価を知る１番の早道かもしれません。

http://www.austintexas.org

チャールストン

旅行者が米国南部のイメージを描くとき、そのイメージはチャールストンに似ています。サウスカロライナ州沿岸にあるこの古都とその住民は、南部の温かさを体現しています。旅人を温かく迎える歓待精神は、歴史地区の砂利道を歩いて昔から住んでいる人々に出会うだけで伝わってきます。キングストリートは街の大動脈で、この周辺ブロックには素晴らしいアンティークショップやブティック、色鮮やかな庭のある由緒ある邸宅などが集まっています。この街の食べ物のおいしさは、近くの料理学校に支えられたシェフたちの創意工夫のおかげです。

http://www.charlestoncvb.com

ナッシュビル

テネシー州ナッシュビルの魅力はカントリーミュージックだけではありません。「ミュージックシティー」の名で親しまれるこの街には世界のトップミュージシャンたちも引き寄せられてきます。そしてここを訪れる人々は、テーマパーク「オープリーランドUSA」のグランド・オール・オープリーやライマン公会堂といった名だたる大会場で彼らの演奏を聞くことができます。また、ダウンタウンの南西の地域「ミュージックロウ」に並ぶライブハウスの１つをのぞけば、スツールに座っている彼らを発見するかもしれません。カントリーミュージック殿堂博物館では、この分野の包括的な歴史に出会います。ほかにも、チークウッド、ベルミード、さらにはアンドリュー・ジャクソン大統領の住居であった「ハーミテージ」などの美術館や博物館があります。

http://www.visitmusiccity.com

ニューオーリンズ

ルイジアナ州ニューオーリンズの雰囲気は、毎晩フレンチメンストリートに流れるジャズのような洗練された感じです。この街に来たら、ニューオーリンズ文化の心臓部、フレンチクォーターに足を運ばずにいられません。地区の中心はジャクソンスクエア。この美しい公園にアーティストやストリートミュージシャンがさらに色を添え活気づけます。ニューオーリンズの食べ物はフレンチやケージャン、クレオールなどの影響が混じり合って、世界に類を見ない独特の料理が楽しめます。ルイジアナ州には900店近くの免税店があり、外国人旅行者がここで買い物をすると消費税分の払い戻しが受けられます。

24頁の「ニューオーリンズ・プアボーイ」もご覧ください。

http://www.neworleanscvb.com

サンタフェ

昔から多くの芸術家や旅行者たちが南西部の素晴らしい光と風景に引かれてニューメキシコ州サンタフェにやって来ます。プラザを中心に生活が回っているこの街は、まるで親密な村のような感じを抱かせます。美術館もショップもレストランもブティックホテルもこのプラザのすぐそばにあり、隣接する総督邸は、宝飾品類や絵画などを売る先住民の伝統工芸職人たちで毎日にぎわっています。サンタフェは全米第２位の美術市場で、およそ100軒のギャラリーが集まるキャニオンロードをぶらつくだけで、その背景を存分に味わえます。

http://www.santafe.org

セントルイス

ミズーリ州セントルイスへの第１歩はフォレストパークから始めるのがよいでしょう。1904年の万博のためにつくられたこの公園には、セントルイス美術館、セントルイス動物園、ミズーリ歴史博物館などたくさんの施設があり、市民や観光客が集まる人気スポットとなっています。これらの施設も含めて、セントルイスではいろいろな施設が無料で楽しめます。郊外まで足を延ばして、リトルイタリーのイタリア風マーケットやレストラン、ザ・ループのレストランやバーなどを探索すれば、この街の発展ぶりを実感できるかもしれません。もちろん、ミシシッピ川にかかるゲートウエーアーチのてっぺんには、ぜひ登ってみてください。

http://www.explorestlouis.com

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

© National Geographic Stock

© Thomas E. Hooper/National Geographic Stock

© Jamie and Judy Wild/DanitaDelimont.com

© Franz-Marc Frei/Corbis

© AP Images/John Russell

(上から時計回りで)チャールストンのイーストベイストリートの歴史地区
(右上)サンタフェの店先
(右中)ニューオーリンズ・フレンチクォーターのバーボンストリート
(右下)ナッシュビルのグランド・オール・オープリーに出演中のガース・ブルックスとリトル・ジミー・ディケンズ
(左)セントルイスのミシシッピ川沿いにかかるゲートウェイアーチ

ビザ詐欺に遭わないために

どうすればビザについての情報が正しいと確かめられますか

米国国務省のビザサービス担当局は、ビザ申請には米国政府のサイトのみを利用することをお勧めしています。米国大使館と領事館のほとんどのウェブサイトには、最後に「.gov」がついています。これらのサイトのページは頻繁に更新されています。

正規の最新情報を入手する最善の方法は、必ず米国政府のウェブサイトを利用することです。米国国務省の代表ウェブサイト*http://www.state.gov/*および旅行者のためのサイト*http://travel.state.gov/*は、各地の米国大使館や領事館のサイトに直接リンクされています。これらのサイトにあるさまざまな書式類は無料で入手できます。追加書式やその他の関連書式は、米国国土安全保障省のサイト（市民権移民局*http://www.uscis.gov/portal/site/uscis*、税関国境警備局*http://www.cbp.gov/*、移民税関捜査局*http://www.ice.gov/* のサイトを含む）から入手可能です。

ビザに関する情報を提供している他のサイトはどうでしょうか

非政府系のウェブサイト（「.com」「.net」「.org」などを含む）の多くは、移民などさまざまなサービスに関して正しい情報を提供しています。しかし、掲載されている情報が最新のものではないこともあります。さらに、ビザや就労許可、永住許可、電子渡航認証システム（ESTA）による電子旅行許可などのサービスを提供しているように見せている詐欺的サイトも中にはあるようです（このようなサイトが米国の国旗や建物を表示している場合もあります）。こうした詐欺的サイトでは、代金や個人情報を要求されるかもしれません。米国政府の公式サイトだという確信がなければ、個人情報を提供したり送金したりしないでください。

移民多様化ビザ（DV）抽選プログラムに関連する詐欺的サイトもあります。そこでも応募手続きにお金を要求されることがあるかもしれません（連邦取引委員会の警告*http://www.ftc.gov/bcp/edu/pubs/consumer/alerts/alt003.shtm*を参照）。DVビザ抽選プログラムへの応募は、定められた登録期間内に米国国務省の公式ウェブサイトで直接申し込む方法しかありません。

詐欺的サイトはどのように報告したらいいですか

ビザに関するインターネット詐欺について申し立てをしたい場合は、米国連邦取引委員会が運営している多国間消費者保護のウェブサイト*http://www.econsumer.gov/english/*をご覧ください。また米国国務省のウェブサイトのFraud Warning（詐欺に関する注意）のページもお読みください。*http://travel.state.gov/visa/immigrants/types/types_1749.html*

観光客の声（中国）

ワン・チェン

© Paul Hardy/Corbis

ニューヨークの夜景の１つ、タイムズスクエア

ワン・チェンは中国人の教師でブログを書いています。このエッセーは中国語から翻訳されました。

旅行者として米国に足を踏み入れたとき、私はそわそわと落ち着かない気持ちでしたが、映画「ターミナル」の主人公がJFK国際空港で経験したように、動揺はすぐに消えました。ここは見知らぬ世界ながらとても親しみやすいところなので、私はだんだん胸がときめいてきて、中国に残してきた空気より湿気の少ない、からっとした夏の空気を深く吸い込みました。

26日間の日程は、映画ツアーから大企業巡り、料理ツアーに至るまで、いろいろな活動で埋め尽くされていました。

30年余りの間「世界の窓」という雑誌を読んで得た米国に対する知識が、目の前に形となって現れ始めていました。これは米国の目撃者となる旅でした―エンパイアステートビルの86階からマンハッタンの夜景を眺め、ラスベガスのMGMグランドホテルカジノで新しい仲間とパーティーで盛り上がり、シカゴのユナイテッドセンターでバスケットボール選手のマイケル・ジョーダンの銅像に敬意を表し、ロサンゼルスではハリウッドのウォーク・オブ・フェイムで映画スターの手形に手を合わせました。

言うまでもないことですが、ケンブリッジのMIT（マサチューセッツ工科大学）の緑の芝生に座ったとき、またワシントンのワシントン記念塔の荘厳さに驚嘆したとき、サンフランシスコのフィッシャーマンズワーフでソースに浸しておいしいロブスターを食べたとき、シアトルでマイクロソフトの技術やボーイングの旅客機を目の当たりにしたとき、私の心はうれしさで舞い上がりました。

あまりにも簡単に舞い上がってしまって楽天的になり、持ち金を最後の１ドルまで使い果たしてしまいました。私の心には美しい思い出が残っていますが、後悔することも多いかもしれません。米国最大のショッピングモールで買い物三昧を楽しむこともなかったし、「ビッグワスプ」（シボレー・カマロ）を運転して東海岸のUSハイウエー１号線を走ることもなかったし、ボストンのケネディ図書館に行って第２の謎の失われた象徴を調べることもありませんでした。私がワシントンを離れる直前にオバマ大統領が専用ヘリコプターでホワイトハウスの芝生に降り立つのも見逃しました。

幸い、米国は何度でも訪れることができる国です。そして何度でも言葉に書き表すことができるのは、感傷的な心情よりむしろ熱い思いについてでしょう。

米国国務省ウェブサイトの「観光ビザ」（Visitor Visa）も合わせて参照してください。
http://travel.state.gov/visa/temp/types/types_1265.html

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

病気やけがで医療が必要になったとき

毎年、数千万人という旅行者が米国を安全に楽しく旅行しています。もし滞在中に病気になったら、あなたの受け入れ先や主催者、ホテル、雇用主、領事館などを通して、最寄りの医師や医療機関の情報を入手することができます。生命にかかわるときには緊急電話911番にかけてください。

米国では、病気の治療や歯の治療、救急治療などにかかる医療費はかなり高額であることに注意してください。米国保健福祉省の医療研究品質局によると、全国平均で、医師の受診料は155ドル、救急施設での受診は1,000ドルです。

米国では、旅行者は健康保険に加入していることを証明する必要はありません。しかし米国国務省としては、旅行者は渡米前に健康保険や旅行保険に加入して、万一病気や事故で医療費がかかっても埋め合わせることができるようにしておくことを勧めます。また、米国に到着したら在留届を出しておきたいと考える人もいるでしょう。あなたの国の米国大使館のウェブサイトにアクセスすれば、領事館が提供できることとできないことがわかります。長期にわたって薬物治療や医療器具を使用している場合には、十分な量の薬や装具を持参するか、米国で補充できるように前もって手配しておきましょう。

短期ビザまたは交流学生ビザで旅行する場合、雇用主や所属する機関などを通して健康保険を手配できることもあります。治療を目的として渡米する場合にはB-２観光ビザを取得しなければなりません。このビザの申請方法については、「観光ビザを申請したい」(10頁)や、国務省の次のウェブサイトをご覧ください。*http://travel.state.gov/visa/temp/types/types_1262.html*

ビザ取得にかかる時間

非移民ビザはできるだけ早めに申請しましょう。旅行開始予定の60日から120日前には申請してください。この日数には、(１)面接の予約を取るまでの期間、(２)ビザの申請手続きの処理にかかる期間、(３)管理上の追加手続き(まれに必要とされる)にかかる期間が含まれます。また、パスポートとビザを郵送してもらうなら、それにかかる日数も計算に入れて旅行プランを立ててください。それぞれの国の面接待ち時間については、*http://travel.state.gov/visa/temp/wait/wait_4638.html*をご覧ください。

さらに、米国大使館の領事部のウェブサイトには、例えば面接予約の取り方など、その地域特有の手続きの仕方や指示が載っているので、全ての情報を十分に確認しておくことが大切です。このウェブサイトでは、学生や交流訪問者、それに面接予約を急がなければならない申請者に対する追加手続きについても説明されています。

ほとんどの申請者は、面接終了後、数日でビザを受け取ることができます。件数は少ないですが、申請者がビザ取得の資格があるかどうかを判定するために追加の「管理手続き」が必要とされることがあります。追加手続きが必要かどうかは、担当官が事前に分かるとは限らないので、旅行開始予定日よりできるだけ早く申請することが極めて重要です。

国によっては、社会不安や戦争その他の理由により、ビザサービスが制限されていたり、提供されていない場合があることにご留意ください。詳しくは、*http://travel.state.gov/visa/temp/info/info_1302.html* をご覧ください。

米国のおいしいサンドイッチのトップ10

ロブ・ウォルシュ

Courtesy of the Atlantic City Convention & Visitors Bureau

ニュージャージー州アトランティックシティーのサンドイッチショップ「ホワイトハウス」で、イタリアンミートとチーズのサンドイッチを作る店員たち

Courtesy of Emperor Anton/Flickr

米国の都市と同様、米国の食べ物も極めて多様性に富んでおり、地域によっていろいろなバリエーションがあります。サンドイッチは素朴なメニューではありますが、これほどその多様性を雄弁に物語る食べ物はほかにないかもしれません。ここで紹介するのは、おいしい米国のサンドイッチのトップ10。それぞれ米国のどこかの都市や地域と深いかかわりを持っています。ロブ・ウォルシュはジェームズ・ビアード・ジャーナリズム賞を２度受賞しているフードライター。

サンドイッチと呼ばれる手軽な食事の由来は、英国のジョン・モンタギュー（1718-1792）、すなわち第４代サンドイッチ伯にちなんでいます。伝説によると、この伯爵は賭け事をしているテーブルの席で食べられるように、薄く切った２枚のパンの間に肉を挟んだ食事を召使に運ばせたのだそうです。

産業革命の間、サンドイッチは家で作って職場に持っていける実用的な昼食として重宝されました。1900年代初期には、スライスしたパンが売られるようになって、サンドイッチの人気はうなぎ登りに上昇しました。

さまざまな地域で愛されている名物サンドイッチの大半は、20世紀初期に登場しています。次に紹介するのは、特に人気の高い10種のサンドイッチです。

イーストコーストサブ

サブマリンサンドイッチ（サブサンド）は、細長いパンを縦に切って、さまざまな具材をたっぷり詰めたサンドイッチです。最初に登場したころのサブサンドは、サラミやモルタデッラ、調味料で味付けしたハムなどのイタリア産加工肉の薄切りとチーズを重ねて挟み、さらにレタスとトマトとピーマンをトッピングしました。パンにはオリーブ油のドレッシングが薄く塗ってありました。その後、トマトソースで煮込んだミートボールあるいは「イタリアンソーセージ・アンド・ペッパーズ」を詰めたものを、オーブンで温めて出すホット版サブサンドも登場しています。

サブマリンサンドイッチの名前は、東海岸の造船所で働く労働者から生まれました。同じようなサンドイッチが、ニューイングランドではグラインダーと呼ばれ、ニューヨークではヒーロー、フィラデルフィアではホーギーと呼ばれています。このサンドイッチは東部沿岸地域のイタリア系アメリカ人の住む地区から始まったものですが、今では全米各地に広がり、名前も、ロケット、魚雷、ツェッペリン、プアボーイ（ポーボーイ）など、地域によってさまざまな愛称で呼ばれています。

ニューオーリンズ・プアボーイ

Frank Stansbury/oysterjubilee.com

ニューオーリンズのストリートフェスティバルで、世界一長いオイスターポーボーイを作る人々

プアボーイという名前は1929年の路面電車のストライキ中につけられました。ストライキ参加者たちは「あのプアボーイ(かわいそうな男)たち」と同情され、ローストビーフの切り落としなどの残り物にグレイビーソースをかけてバゲットに挟んだサンドイッチが無料で配られました。

しばらくすると、ニューオーリンズの至る所で、レストランや売店が自分たちのサンドイッチを「プアボーイ」(ポーボーイとも)と呼ぶようになっていきました。この街独特のプアボーイはシーフード版で、当時のニューオーリンズではエビやカキが豊富に捕れて値段も安かったので、油で揚げたエビやカキを詰めたサンドイッチがよくありました。ニューオーリンズ・プアボーイを注文するときには、レタスとトマトとマヨネーズを加えるなら「ドレス」、プレーンのままがよければ「アンドレス」と言って頼みます。

ガルフコースト・マフレッタ

1890年代、メキシコ湾沿岸の港湾都市に住むシチリア人のパン職人は、シチリア風のパンを手押し車に載せて売っていました。かみごたえのあるシチリアの円形パンはマフレッタと呼ばれ、丸のままか、半分に切ってハムとオリーブを挟んで売られました。

1900年代初期の革新主義時代に、公衆衛生を取り締まる新しい法律ができて、街路で食べ物を売ることが米国全土で禁止されました。1905年ごろ、ニューオーリンズのフレンチクォーターのイタリア人の食料品店が、地元のシチリア人のパン屋からマフレッタを買い、そのパンにサラミやモルタデッラ、プロボローネチーズ、オリーブサラダを挟んで売り始めました。食料品店では、持ち帰り用のサンドイッチを売ると同時に、買ってすぐに食べられるように店内にテーブルも用意しました。

今日では、主にメキシコ湾岸州のレストランやカフェで売られていますが、決定版はやはりフレンチクォーターの食料品店で売っているマフレッタです。

フロリダ・キューバンサンドイッチ

キューバンサンドイッチは、キューバンブレッドにハム、ローストポーク、スイスチーズ、ピクルス、マスタード、時にはサラミを挟みます。最近のキューバンサンドは、サンドイッチプレスでチーズが溶けるまで焼かれています。こうしてプレスされて平たくなった独特の形のサンドイッチは、目の詰んだしっかりした食感になります。

しかし、キューバンサンドは初めから焼いて売られていたわけではありません。最初に人気が出たのは、1900年ごろのフロリダ州タンパ近郊のイーボルシティーとキューバで、キューバでは「ミクスト」と呼ばれて、葉巻工場や砂糖精製所の労働者たちのお気に入りのランチでした。

1960年代以降、マイアミはカストロ政権を逃れてきたキューバ人であふれるようになりました。このころに、どのカフェテリアやコーヒーショップにもサンドイッチプレスでトーストされたキューバンサンドが出現したのです。今でもマイアミの名物サンドイッチになっています。

フィリー・チーズステーキ

このボリュームたっぷりのホットサンドイッチは、1930年代にフィラデルフィアのホットドッグスタンドで発案されました。鉄板でタマネギと一緒に炒めた薄切りの牛肉を、縦に切ったサブサンド用のパンに挟み、チーズをトッピングして出来あがり。牛肉にマッシュルーム、牛肉にピーマン、牛肉に追加のタマネギ、といったバージョンもあります。プロボローネチーズがパンの奥の方に入っていて、炒めた肉を載せるとチーズが溶けて肉にからまるようになっています。別バージョンとして、完成したサンドイッチに、オレンジ色のプロセスチーズのスプレッド「チーズウィズ」をトッピングしたものもあります。

© AP Images/Matt Rourke

ランチタイムに、フィラデルフィア・チーズステーキを求める人々の列

© AP Images/Pat Wellenbach

メーン州ファイブアイランズのレストランで、オニオンリングを添えたロブスターロールを見せるウェイトレスのレスリー・スペンサー

ニューイングランド・ロブスターロール

ロブスターロールはメーン州で有名になりましたが、ロブスターの捕れるニューイングランド各州や隣接するカナダの大西洋岸諸州ではごく一般的な食べ物です。ロブスターロールは、小さく切ったロブスターの身とネギかセロリを、塩コショウで味付けしたマヨネーズであえ、トーストしたホットドッグロールに挟んで出されます。最高級のロブスターロールになると、ロブスター１匹分の身が入っています。ニューイングランドでは大変人気のあるサンドイッチなので、ファストフード店でもメニューに載っています。

シカゴ・イタリアンビーフ

ローストビーフのサンドイッチはいくつかの地方の名物になっていますが、シカゴ・イタリアンビーフもその１つ。このサンドイッチはシカゴのホットドッグスタンドで有名になりました。ニンニクのきいた汁に漬けて焼いたローストビーフを薄く削ぎ切りにし、肉汁に浸した長細いロールパンに挟みます。ローストビーフに炒めたピーマンを載せた「スイート」や、ジャルディニエラというスパイシーなピクルスをトッピングした「ホット」を注文することもできます。パンは、肉汁に軽く浸けた「ディップ」、肉汁に２度くぐらせる「ジューシー」、肉汁が滴るくらいの「ソーク」など、好みに応じて選びます。

ロサンゼルス・フレンチディップ

シカゴ・イタリアンビーフと同じように、LAフレンチディップは薄くスライスしたローストビーフをバゲットに挟んで作ります。典型的なシカゴ版はあらかじめ薄切りにしてあるローストビーフを使いますが、ハリウッド版はミディアムかミディアムレアのローストビーフをその場で切って使うのが普通です。パンにはディジョンマスタードを薄く塗り、軽く肉汁をかけてあります。たいていの店では、サンドイッチを肉汁に浸して食べられるように、ローストビーフの肉汁を入れたボウルを添えてくれます。

バッファロー・ビーフ・オン・ウェック

ニューヨーク州西部の都市バッファローでは、ローストビーフサンドイッチにキュンメルウェックロールというパンを使うのが特徴です。ドイツ生まれのパン屋が広めたこの丸いパンは、上にコーシャーソルトとキャラウェイシードが散りばめられています。キュンメルとはドイツ語でキャラウェイ、ウェックはドイツ南部の方言でロールパンを意味します。バッファローの酒場の店主たちが、客にもっと酒を飲ませようと塩味のきいたパンでサンドイッチを作って出したのが始まりです。レアのローストビーフは薄切り、キュンメルウェックロールは肉汁に浸します。ホースラディッシュ、ディルピクルス、フレンチフライ（フライドポテト）が付くのが標準的です。

テキサスBBQブリスケットサンドイッチ

じっくりスモークしたブリスケット（牛の胸肉）は、テキサスのバーベキューレストランの人気アイテムで、その最もポピュラーな食べ方はサンドイッチにすることです。これには２種類あります。１つはスライスブリスケットサンド。バーベキューソースを塗ったハンバーガー用のパンに、薄くスライスしたブリスケットをたっぷり重ね、さらにタマネギのスライスと小さく切ったディルピクルスをトッピングします。もう１つのタイプはチョップブリスケットサンドで、細かく刻んだブリスケットにバーベキューソースを合わせ、その上にやはりタマネギとピクルスを載せます。チョップブリスケットサンドは、ほかの地域で「スロッピージョー」（風味の強いトマトソースで煮たひき肉のサンドイッチ）と呼ばれているサンドイッチによく似ています。

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

商用ビザを申請したい

商用ビザはどういう人が申請するのですか

商用ビザを申請するのは、仕事に関係するイベントや会議に出席したり、将来ビジネスに結び付く可能性のある場所を調査したり、契約の交渉をしたりするために旅行する場合です。その他の仕事上の旅行についての情報は、次のサイトをご覧ください。*http://travel.state.gov/pdf/BusinessVisa.pdf*

あなたの国がビザ免除プログラム（VWP）に参加していない場合、またあなたが90日以上の滞在を予定している場合には、ビザを申請しなければなりません。VWP参加国の旅行者は電子読み取り装置でスキャンできるパスポートを所持しなければなりません。新しい規則により、VWP旅行者は電子渡航認証システム（ESTA）の申請が義務づけられています。詳しくは、次のサイトをご覧ください。*http://travel.state.gov/visa/temp/without/without_1990.html#epassport*

旅行開始のどのくらい前に申請したらいいですか

旅行開始予定の少なくとも２カ月前、科学関係の会議に出席する場合には３カ月前に申請してください。ビザ審査のための面接とビザ申請の手続きを処理するには、これくらいの時間がかかります。ビザを郵送してもらう場合には、それにかかる日数も計算に入れて計画を立ててください。待機時間は大使館によって、またシーズンによっても異なります。例えば、夏に旅行を希望する申請者が多いので、その時期は待機時間がさらに長くなるかもしれません。各国の事情については次のサイトをご覧ください。*http://www.usembassy.gov/, http://travel.state.gov/visa/temp/wait/wait_4638.html*

ビザ取得にかかる費用

ビザ申請料は140ドル（2010年６月現在）です。払い戻しはできません。米国との互恵主義に基づいて、ビザ発給手数料を課せられる国もあります。互恵主義の料金が発生するかどうかは、*http://travel.state.gov/visa/fees/fees_1341.html* で確認してください。

B-１ビザ申請の主な手順

まず、ビザ申請の面接の予約を取ります。最寄りの大使館または領事館のウェブサイトにアクセスして、正しい手続きの仕方を調べてください。それからビザ申請料を支払い、あなたの国で必要とされるビザ申請書に記入してください。オンラインでの申請書は、ほとんどの国においてDS-156からDS-160に取って代わっています。申請書は*http://travel.state.gov/visa/forms/forms_4230.html* にアクセスして入手してください。（注：ほとんどの国において、面接を申し込む前に、申請書に全ての必要事項を記入し、申請料を払っておかなくてはなりません。*http://www.usembassy.gov/* にアクセスして、あなたの国に関連するビザ情報を確認してください）

面接に際しては、（１）有効期限が滞在期間を超えているパスポート、（２）面接予約確認書、（３）記入済みのDS-160の確認ページ、（４）ビザ申請料の領収書、（５） ５cm×５cmの証明写真１枚（DS-160で写真をアップロードした場合を除く）を持参してください。

さらに、渡米の理由、滞在終了後は米国を出国する意思があること、旅行費用を賄うのに十分な資金があることを示す証拠書類を持参しなければなりません。このほかにも必要な書類があるかどうか、大使館に確認してください。

米国国務省ビジネス・ビザ・センターのウェブサイトも参照してください。*http://travel.state.gov/visa/temp/types/types_2664.html*

ビジネスマンの声(ケニヤ)

フレデリック・マシンド・オヤンジ

Courtesy of Maggie Silker

ボルティモア・ワシントン国際空港で、乗客を待つタクシーの列

フレデリック・マシンド・オヤンジはケニヤのウンドゥグ・フェアトレード社のマーケティング・マネジャー。

アフリカ大陸の外へ出た私の初めての旅。それは1995年メリーランドで開かれたフェアトレード会議に出席するために米国へ行ったときです。このときの経験は、会議の主催者が事前に十分な時間的余裕をもって旅行を手配するためのガイドラインを出してくれたこともあって、のちの旅行全てに大いに役立ちました。私はこのガイドラインの情報を、旅行の出発前に確認すべき必要事項のチェックリストとして活用しました。

私はこの旅行をとても楽しみにしていました。友人たちは皆、私のために喜んでくれ、うらやましがりました。渡米しようとしている人たちの大半を一番不安にさせるのは、入国ビザを取得しなければならないことです。私はビザ申請に必要な書類を全て用意していたので、申請は必ず認められると信じていましたが、複数回入国できる５年間有効のB１/B２マルチビザの発給が許可されたのはうれしい限りでした。

このビザを手に入れたので、次に自分の旅行計画と航空券、旅行保険を確認することができました。こんなに長時間飛行機に乗るのは初めてでした。アムステルダムとデトロイトを経由して最終目的地のボルティモアまで合計26時間の旅です。私が手配を頼んだ旅行代理店は、空港で飛行機を乗り継ぐためにはどうしたらいいか、通過(トランジット)する空港や到着した空港ではどの標識を探せばいいかなど、必要な情報を教えてくれたのでとても助かりました。空港のセキュリティーチェックは大使館で受けたセキュリティーチェックより徹底しているので、渡航に関連する書類は全てすぐに取り出せるようにしておかなければなりません。

米国に着いた私が１歩空港を出て最初に経験したカルチャーショックは、タクシーを簡単には見つけられなかったことです。私の国のタクシーは古ぼけた小さい車だったので、優雅なリムジンが実はタクシーなのだと気がつくまでにしばらく時間がかかったのです。メリーランドの会議場までの道中は景観が素晴らしく、特に、手入れの行き届いた芝生の庭に国旗を掲揚したモダンな家々が建っている田園地帯の風景には目を見張りました。ホテルに到着するや、私は時差ぼけですぐに寝てしまいました。目が覚めたのは夜の８時でしたが、まだ太陽が出ていたため、私は急いで朝食をとらなくてはと思い込んだら、出されるのは夕食だと言われました！

この会議は事前に計画が立てられていたので、私にとって良い経験となり、このあとに何回も渡米した際に計画を立てるのに役立ちました。今では私はいつも、商談の予約を含めて関連のある旅行情報を全て把握しているか、出発前に確認するようにしています。

米国国務省ビジネス・ビザ・センターのウェブサイトも参照してください。*http://travel.state.gov/visa/temp/types/types_2664.html*

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

一時就労ビザを申請したい

どういう人がH-１Bビザを申請するのですか

米国の雇用主が保証人となっている専門職者か学生が、特殊技能職従事者として米国で働く場合に、H-１Bビザを申請します。H-１Bビザを取得するためには、少なくとも学士以上の学位を持っていなければならず、米国での職務も学士以上の学位が必要なものでなければなりません。H-１Bビザの発給は毎年６万5,000件までに限られています。一時就労者の種類については *http://travel.state.gov/visa/temp/types/types_1271.html* を参照してください。

H-１Bビザの申請には どのくらい時間がかかりますか

H-１Bビザは米国政府の複数の官庁の承認が必要となりますので、ビザ申請者および雇用主は、就労開始予定の少なくとも120日前には手続きを始めた方がいいでしょう。

H-１Bビザ申請の手順

まず、あなたの保証人になる雇用主は請願書（I-129）を提出し、それに関連する諸費用を払わなければなりません。この手続きが完了したら、あなたの国の最寄りの米国大使館か領事館のウェブサイトにアクセスして、面接の予約を取り、H-１Bビザを申請してください。面接の日程の決定や申請手続きの処理にかかる待ち時間については、*http://travel.state.gov/visa/temp/wait/wait_4638.html* をご覧ください。

ビザ申請書（*http://travel.state.gov/visa/temp/types/types_1271.html* のRequired Documentationを参照）に必要事項を記入し、ビザ申請料140ドル（2010年６月現在）を払います。米国との互恵主義に基づいてビザ発給手数料を課せられる国もあります（*http://travel.state.gov/visa/fees/fees_1341.html* で確認してください）。ビザサービスの料金についての詳しい情報は*http://travel.state.gov/visa/temp/types/types_1263.html* をご覧ください。

面接に際しては、（１）有効なパスポート、（２）承認された請願書（I-129）に印刷された受理番号、（３）オンラインビザ申請書DS-160の確認ページ、（４）５cm×５cmの証明写真１枚（DS-160で写真をアップロードした場合は不要）を持参してください。またビザ申請料の領収書も持参してください。国によってはビザ発給手数料が必要な場合もあります。あなたの国に関連するビザ情報は*http://www.usembassy.gov/* にアクセスして調べてください。

また米国国務省のTemporary Workers Overview（*http://travel.state.gov/visa/temp/types/types_1275.html*）も併せてご覧ください。

専門職者の声（ナイジェリア）

エリザベス・アンチェ

Courtesy of Martha Pope/IRIS

IRISプログラムのナイジェリアとタンザニアの学生

エリザベス・アンチェはナイジェリアのカドゥナ州メディア・コーポレーションで働くジャーナリスト。

私は6週間の米国（別名「神の恵みの国」）の滞在を通して、自分も母国ナイジェリアの人々の生活に大きな変化をもたらす活動ができると思えるようになりました。

非営利団体「国際サービスのためのアイオワ・リソース」（IRIS）が運営する女性リーダーシッププログラムに北部ナイジェリアから参加した私たちのチームは、デモインのアイオワ州議会議事堂で州議会に表彰されたことを、大変誇らしく思いました。

私が深い感銘を受けたのは、地域の住民参加や慈善活動やボランティア活動のレベルの高さと、ほとんどの組織・団体や家族がそうした活動を支援していることでした。これは人間の尊厳を重んじる米国の伝統のせいかもしれないと思い、私はすぐにその人間尊重の精神を吸収したのです。私は、外国人との間に異文化交流の関係を築こうとして私を受け入れてくれたアメリカ人家族の自宅で、そうした伝統をじかに体験しました。

私はホストファミリーと大変仲良くなり、リトルビットにほれ込みました。子犬のリトルビットは私の弟のような存在になりました。リトルビットのことでびっくりするのは、おむつを着けていることです。私の国では人間の赤ん坊でさえおむつはぜいたく品だと思われているのに！米国人は本当にペットを愛しているのだということが分かりました。ナイジェリアでは、犬は私たちの家を守る番犬です。米国人は犬を友だちとして飼います。

帰国してからの私は、毎日忙しく働いていて暇な時間は全くありませんが、ホワイトハウスや、米国ホロコースト記念博物館、アフリカ系米国人の文化の博物館などの、過去を正確に記録した博物館、そしてワシントン記念塔といったワシントンの名所を訪れたときのことを思い出して懐かしんでいます。

ジャーナリストとして、アイオワ公共テレビ（IPTV）で実務研修をしていたとき、ボイス・オブ・アメリカ（VOA）のインタビューを受けて胸が躍りました。私は「キルティングが大好き」というテレビ番組の制作にかかわっていました。私がこのシリーズ番組の数回分の制作に参加したことへの友情と感謝のしるしとして、ナイジェリアで私の通っている教会の孤児院に、キルティング用の布が贈られました。私はIPTVにいる間に、この局のアナログ放送からデジタル放送への移行に立ち会う幸運に恵まれました。ナイジェリアも2012年までにデジタル放送への切り換えを目指しています。

ナイジェリアの人々をどうやって助ければよいか。私は、例えばACCESS（暴力を振るわれた女性のシェルター）や「シスターズ・オン・ターゲット」（アフリカ系米国人女性の指導的グループ）、「女性と政治のためのキャリー・チャップマン・キャット・センター」などの団体を訪ねて、そのアイデアをいくつか思いつきました。

ナイジェリアに帰国すると、私たちは米国での体験を活かして、ナイジェリアの将来における女性の役割を考える国際会議を組織し、農村の貧しい女性を力づける活動に取り組みました。私はこれを「リーダシップ移転」と呼んでいます。米国の問題解決方法がアフリカの風味を加えてナイジェリアへ輸出されたのです。

米国国務省のForeign Media, Press and Radio Visas（外国メディア、プレス、ラジオのビザ）のサイトもご覧ください。
http://www.travel.state.gov/visa/temp/types/types_1276.html

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

雰囲気の変化

ジェーン・レビア

セキュリティーの向上、経済の低迷、インターネットなどによって、米国を訪れる外国人の体験が変化していますが、改善された点もたくさんあります。ジェーン・レビアは交通・旅行ジャーナリスト。

デジタル方式の指紋採取、ドルの為替レートの変動、インターネット上の大量の情報などにより、2010年に米国を訪れる外国人は、21世紀初めに訪れた人とは異なる体験をしています。

こうした変化は、旅行者が自国を出発する前からはっきりと表れています。

2004年、米国国土安全保障省（DHS）―2001年の9.11テロ攻撃後、2002年後半に立法によって設立された連邦政府組織―は、米国のパスポートまたはビザを持たない外国人の訪問者に対して、生体認証機能を備えた新しい一連の手続きを行うことを定めました。

具体的には、これらの訪問者がビザを申請する際、面接担当官による申請書とその関係書類の審査、デジタル方式の指紋採取とデジタル写真の撮影が行われます。

最近、こうした面接の待ち時間が著しく短縮されています。米国旅行産業の業界団体「USトラベル」のジェフ・フリーマン広報担当部長によれば、過去には待ち時間が100日を超えていましたが、現在は30日未満ですむ申請者が多くなっています。

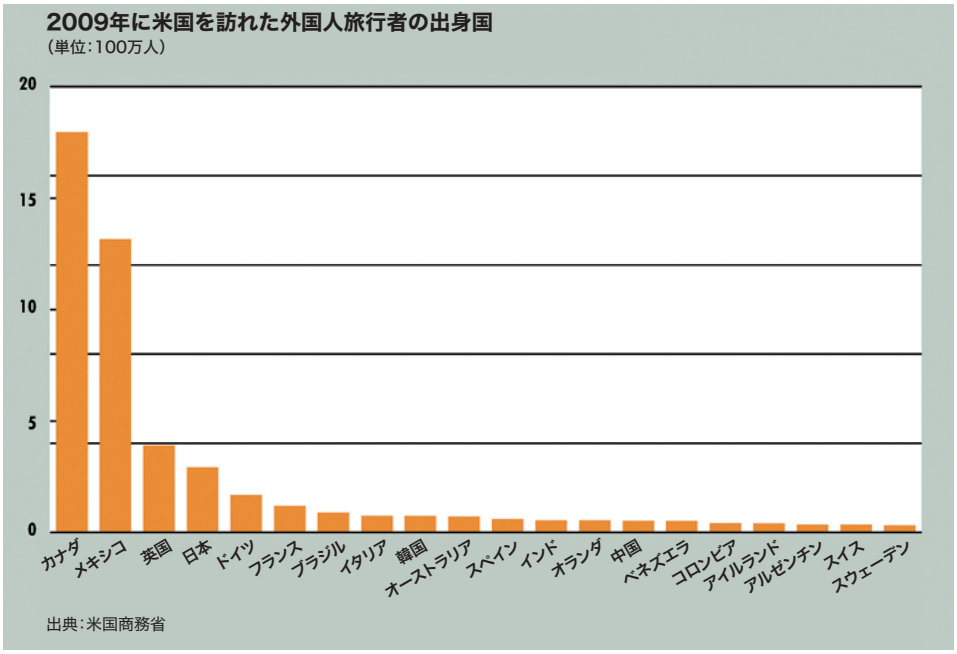
ビザ免除プログラム（VWP）とは、セキュリティー等のさまざまな要件を満たす国の国民が、滞在期間90日以下の商用または観光目的で渡米する場合、ビザが免除されるという制度ですが、現在この制度は36カ国に適用されています。VWP参加国は次のとおりです。アンドラ、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブルネイ、チェコ共和国、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、アイルランド、イタリア、日本、ラトビア、リヒテンシュタイン、リトアニア、ルクセンブルク、マルタ、モナコ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ポルトガル、韓国、サンマリノ、シンガポール、スロバキア共和国、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、英国。

VWP参加国からの旅行者は、国土安全保障省のオンラインによる電子渡航認証システム（ESTA）の認証を受けなければなりません。ESTAは、その旅行者が航空機や船に搭乗する前に、VWPに基づいて米国を旅行する資格があるかどうか、そしてその旅行が何らかの法律執行上や保安上のリスクをもたらすかどうかを確認するものです。

外国人旅行者は米国に到着したら、ビザを持っている場合は白い用紙のI-94、VWP参加国の旅行者ならば緑の用紙のI-94Wを、税関国境警備局（CBP）の警備官に提出しなければなりません。警備官は米国滞在についていくつか質問し、指紋を採取し、デジタル写真を撮ります。なお、まもなく、ビザを必要としないVWP旅行者も料金の支払いが義務づけられる予定です。警備官はI-94かI-94Wを確認した後、その一部を旅行者に渡しますので、旅行者はそれを保存し、米国を出国するときに警備官に返します。

2007年、米国議会は「モデル入国港」プログラムに対して4,000万ドルの支出を承認しました。このプログラムの目的は、外国からの入国者が最も多い20の国際空港で、外国人旅行者が到着時に体験する状況を改善することです。そのために、米国20カ所の国際空港における職員配置の改善、待ち行列の管理の向上、看板・標識の充実、インフラの整備、そして税関国境警備官を少なくとも200人増員することを目指しています。

Vincent Hughes



Vincent Hughes

(NAB)の年次総会とコンシューマー・エレクトロニクス・ショー(全米家電協会主催)は、どちらもラスベガスで開かれるイベントですが、外国からの参加者が増加しているということです。

外国人旅行者にとって米国が行きやすい目的地になってきたもうひとつの要因はインターネットだ、と述べるのはNYC&カンパニー(非営利団体)のフレッド・ディクソン観光開発担当部長です。「これまでになく多くの情報が発信され、消費者と直接つながる予約ルートがあるので、消費者は家庭から予約できますし、電話でも予約できるんです」

インターネットで米国旅行の情報を調べるなら、何と言っても「ディスカバー・アメリカwww.discoveramerica.org」がお薦めです。これは2009年にUSトラベル(全米旅行産業協会)と米国商務省によって開設されたウェブサイトで、アメリカン・エクスプレス、フォドーズ(ガイドブック出版社)、トラベロシティー(オンラインの旅行代理店)、グーグル、ウェザー・コム、各州の観光庁、目的地となる地元の観光局、その他いろいろな組織から集めた情報を、英語、スペイン語、ドイツ語、日本語、フランス語で提供しています。

世界経済の変化もまた、米国を訪れる外国人の旅行に大きな影響を及ぼしています。

米国では、航空会社の世界的急増と、新しい路線への経済的・効率的な航空機の使用とが活性剤となって、米国系・非米国系を問わず、かつてないほど多くの空港へ乗り入れる航空便が増えています。アメリカン航空やコンチネンタル航空、デルタ航空などの米国系航空会社は、特にヨーロッパとアジアへ乗り入れる国際線を積極的に拡大しており、その一方で、英国航空、ルフトハンザ航空、シンガポール航空などのヨーロッパやアジアの航空会社は、米国への路線を新たに追加したり、すでに就航している路線で増便したりしています。さらに、米国はEUおよび日本と、航空便に関する規制を撤廃する「オープンスカイ」協定を結んだため、EUと日本双方からの米国行きの便が増えています。

為替レートの変動は予測がつきませんが、自国の通貨がドルに対して値上がりしている国の旅行者にとっては、米国はこれまでよりはるかに安上がりに旅行できる国になっています。ニューヨークやサンフランシスコなど、以前はかなり高くついた人気の目的地も、今ではより手ごろな費用で訪れることができます。

米国の景気低迷もまた—少なくとも当面は—ホテルの空室率を上昇させており、多くのホテルが室料を大幅に値引きしているため、これも外国人旅行者にとってはプラス要因になっています。

グローバル化のおかげで、米国は国際見本市の開催地として魅力を増してきました。ラスベガス観光局のロッシ・ラレンコッター局長兼最高責任者の話では、全米放送事業者協会

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

米国内の移動

ジェーン・レビア

© AP Images

ボストンとワシントンを結ぶアムトラックの特急列車アセラ

多くの外国人旅行者は、米国内の移動手段が日ごろ使い慣れているものとは違うと感じるでしょう。ジェーン・レビアは旅行・交通ジャーナリスト。

広い米国を動き回るのは、ほかの一部の国の中を旅行するのとは勝手が違います。米国の一部の地域は人口が密集していますが、ほかの地域はそうでもありません。このことは、特定の都市、とりわけ大規模な都心部を持つ都市では公共交通機関がいろいろ選べますが、ほかの地域では、地理的・経済的理由から自動車への依存度が高くなるということを意味します。ですから、ある土地から別の土地への移動は、飛行機、電車、バスを使うか、自分で車を運転するか、あるいはその組み合わせということになるでしょう。

米国内では、ある地域から別の地域への移動には、時には同じ地域内を移動する場合でも、飛行機がよく使われます。

日本や中国、そしてヨーロッパの多くの国では、例えば日本の新幹線やヨーロッパのユーロスターのような高速鉄道が大変発達していますが、米国ではそれほど一般的ではありません。全国的な鉄道網を持つアムトラックが、北東回廊線（ノース・イーストコリドー）沿いに特急列車アセラを運行しているだけです。アセラはボストン、ニューヨーク、フィラデルフィア、ボルティモア、ワシントンを高速で結び、便数も多く出ています。アムトラックは、「カリフォルニアゼファー」や「コーストスターライト」など、米国西部を走る観光用列車も運行しています。

グレーハウンドやトレイルウェイズなどのバス会社は、米国全土に長距離バスの路線を持ち、頻繁に運行しています。またメガバスやボルトバスなどの地方のバス会社は、人気のある路線で割引運賃を提供しています。

都市部では、いろいろな公共交通機関を利用することができます。ニューヨークなどの大都市でしたら、広い範囲にわたるバスや地下鉄の路線網が整っており、便数も多く運行されています。大都市では、観光ツアーを催行している観光バス会社もあります。

それでも米国内を旅して回るのに最適な方法の１つは車を借りることだ、と話すのは、イリノイ州ベルビルの公共政策コンサルティング会社「デモグラフィア」のウェンデル・コックス社長です。

「驚くほど順調に行くし、どこででも借りられます」とコックス社長は言います。

LEC（マサチューセッツ州ケンブリッジの経営財務コンサルティング会社）のダン・カスパー社長は、米国では多くの国よりガソリン価格がずっと安いので、あまり費用のかからないレンタカーの旅ができる、と指摘しています。

「この国の広さや、人口が少なくて公共の乗り物を維持できないような町が多いことを考えると、レンタカーで回る方がいろんな穴場へ行けるでしょう」とカスパー社長。「車でなら、自分のペースで、好きな所へ行けるという柔軟性があります」

米国のレンタカー会社で外国人旅行者が車を借りるには、一般的に言って、有効な運転免許証と大手クレジット会社のクレジットカードの提示が求められます。

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

Vincent Hughes

都市間推定移動時間の例

ニューヨーク～ボストン	推定飛行時間	１時間５分
ニューヨーク～ボストン	推定走行時間	３時間56分
ニューヨーク～ワシントン	推定飛行時間	１時間
ニューヨーク～ワシントン	推定走行時間	４時間３分
ニューヨーク～シカゴ	推定飛行時間	３時間
ニューヨーク～シカゴ	推定走行時間	12時間45分
ニューヨーク～マイアミ	推定飛行時間	３時間
ニューヨーク～マイアミ	推定走行時間	20時間31分
ニューヨーク～ロサンゼルス	推定飛行時間	６時間10分
ニューヨーク～ロサンゼルス	推定走行時間	41時間40分
マイアミ～ロサンゼルス	推定飛行時間	６時間
マイアミ～ロサンゼルス	推定走行時間	40時間59分
マイアミ～シカゴ	推定飛行時間	３時間５分
マイアミ～シカゴ	推定走行時間	22時間14分
ロサンゼルス～サンフランシスコ	推定飛行時間	１時間10分
ロサンゼルス～サンフランシスコ	推定走行時間	６時間
ロサンゼルス～ホノルル	推定飛行時間	６時間

出典：*http://www.oag.com,*　*http://www.randmcnally.com*

空港のセキュリティーチェックを通過する

ジェーン・レビア

© AP Images/Jon Super

英国の空港では、乗客はこのようなボディースキャナーを通って検査を受ける

旅行・交通ジャーナリスト、ジェーン・レビアが自分で体験した空港のセキュリティーチェックについて述べています。詳しい情報は運輸保安局のサイト*http://www.tsa.gov/* を参照してください。

米国内で飛行機に乗るには、国土安全保障省の運輸保安局が管理している空港セキュリティーを通り抜けなければなりません。

セキュリティーのチェックポイント（検問所）に近づいていくと、運輸保安局の係官に停止を命じられ、飛行機の搭乗券と合法的な身分証明書の提示を求められます。私は身分証明書として運転免許証を使いますが、外国人旅行者はパスポートを見せるのがよいでしょう。

この係官のチェックが終わると、別の係官のところへ進み、もう一度搭乗券と身分証明書の確認を受けます。そのあと、ほかの乗客とともにチェックポイントへと進んでいきます。ここで、私自身と機内持ち込み手荷物が検査されます。私はプラスチックの容器を何個か取って、持っていたハンドバッグとトートバッグをそこに入れます。係官の求めに応じて、靴とコートを脱ぎ、それもプラスチックの容器に入れます。それらの持ち物はベルトコンベアで運ばれて、X線検査の機械を通り抜けます。運輸保安局の係官がX線検査機の画面で、私の持ち物に禁制品や航空安全上脅威となる物体が入っていないことを確認します。

別の係官が私に高度画像処理技術を駆使したボディースキャナーの中へ入るように指示します。これは米国の数都市の空港で運輸保安局が使っている最新の検査装置です。ボディースキャナーの中へ入ると、係官にちょっとの間両手を上げているように言われ、私の全身の画像が作成されますが、この係官はその画像を見ることはできません。画像は離れた場所にあるモニター画面に表示され、別の係官によって検査されるのですが、この係官からは私の姿は見えません。プライバシー保護の理由から画像はぼやけていますが、検査して異常なものは見つからないことが確認されると、画像は自動的に消去され、私はボディースキャナーから出てきます。

それからすぐに、検査を終えた私はコンベアから手荷物を回収し、靴をはき、コートを着て、飛行機を待つために搭乗ゲートへと進みます。

運輸保安局のウェブサイト*http://www.tsa.gov/travelers/index.shtm*もご覧ください。

本稿に示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。

参考資料

米国内旅行に関する出版物、ウェブサイト、映像

書籍・記事

"The Best Sandwiches in America." *Esquire*, February 16, 2008,
http://www.esquire.com/features/food-drink/sandwiches

Bryson, Bill. *The Lost Continent: Travels in Small-town America.* New York: Harper and Row, 1989.

Bryson, Bill. *A Walk in the Woods: Rediscovering America on the Appalachian Trail.* New York: Broadway Books, 1998.

Duncan, Dayton. *The National Parks: America's Best Idea; an Illustrated History;* with a preface by Ken Burns. New York: Alfred A. Knopf, 2009.
Notes: "Based on a film by Ken Burns produced by Dayton Duncan and Ken Burns, written by Dayton Duncan."

"Destination America." *Smithsonian*, vol. 40, no. 2, May 2009, pp. 55-66, 68-81.
Profiles: Big Sur, California; Pensacola, Florida; and Chicago

Fried, Stephen. "America's Greatest Train Rides," *Parade,* March 28, 2010
http://www.parade.com/news/2010/03/28-greatest-train-rides-in-america.html

Fry, Stephen. *Stephen Fry in America: Fifty States and the Man Who Set Out to See Them All.* Photographs by Vanda Vucicevic. New York: William Morrow, 2009.

Heat-Moon, William Least. *Blue Highways: A Journey into America*. Boston: Little, Brown and Co., 1982.

Heat-Moon, William Least. *Roads to Quoz: An American Mosey*. New York: Little, Brown and Co., 2008.

Heitmann, John. *The Automobile and American Life.* Jefferson, NC: McFarland, 2009.

Kerouac, Jack. *On the Road*. New York: Viking Press, 1957.

McKibben, Bill, Terry Tempest Williams, William Least Heat-Moon. *Three Essays*. [by] Bill McKibben, [Arlington, Va.]: Nature Conservancy, 1993.
Contents: The Adirondack Mountains, New York; The Colorado Plateau, Utah; and The San Pedro River, Arizona.

Povo, Kelly. *Roadsides*: *Images of the American Landscape*. Plymouth, MN: Crotalus Publishing, 2004.

Priven, Judy. *Hello! USA: Everyday Life for International Visitors and Residents*. Bethesda, MD: Hello! America, Inc., 2005.

Raban, Jonathan. *Old Glory: An American Voyage*. New York: Simon and Schuster, 1981.

Reader's Digest Association. *Discover America: A Comprehensive Travel Guide to Our Country's Greatest Destinations*. Pleasantville, NY: Reader's Digest Association, 2004.

Ricciuti, Edward R. *America's Top 10 Natural Wonders*. Woodbridge, CT: Blackbirch Press, 1998.

Rothman, Hal K. and Sara D. Ewert, eds. *Encyclopedia of American National Parks*. Armonk, NY: M.E. Sharpe, 2004.

Scheller, William. *Train Trips: Exploring America by Rail. Rev. ed.* Charlotte, NC: East Woods Press, 1984.

Setterberg, Fred. *The Roads Taken: Travels Through America's Literary Landscapes*. Athens, GA: University of Georgia Press, 1993.

Spears, Grady and Robb Walsh. *A Cowboy in the Kitchen: Recipes from Reata and Texas West of the Pecos.* Berkeley, CA: Ten Speed Press, 1998.

Steinbeck, John. *Travels With Charley: In Search of America.* New York: Viking Press, 1962.

Stern, Jane and Michael Stern. *Roadfood*. New York: Broadway, 2008.

Sullivan, Robert. *Cross Country: Fifteen Years and 90,000 Miles on the Roads and Interstates of America with Lewis and Clark, a Lot of Bad Motels, a Moving Van, Emily Post, Jack Kerouac, My Wife, My Mother-in-law, Two Kids, and Enough Coffee to Kill an Elephant*. New York: Bloomsbury, 2006.

U.S. National Park Service. *The National Parks: Shaping the System*. Washington, DC: U.S. Department of the Interior, 2005.

Walsh, Robb. *Sex, Death, and Oysters: A Half-shell Lover's World Tour*. Berkeley, CA: Counterpoint, 2009.

Weiland, Matt and Sean Wilsey, eds. *State by State: A Panoramic Portrait of America*. New York: Ecco, 2008.

Yaccarino, Dan. *Go, Go America*. New York: Scholastic Press, 2008.

報告書

Institute of International Education
Open Doors: Report on International Educational Exchange.
New York: The Institute; with support from the U.S. Department of State's Bureau of Educational and Cultural Affairs.
Open Doors Report 2009
Selected tables are available online:
http://opendoors.iienetwork.org/

U.S. Department of Commerce
International Trade Administration
Office of Travel and Tourism Industries
International Visitation to the United States: A Statistical Summary of U.S. Arrivals (2009)
http://tinet.ita.doc.gov/outreachpages/download_data_table/2009_Visitation_Report.pdf

ウェブサイト（政府）

U.S. Department of Commerce
International Trade Administration
Office of Travel and Tourism Industries
http://tinet.ita.doc.gov/

U.S. Department of Homeland Security
U.S. Immigration and Customs Enforcement
Student and Exchange Visitor Information System (SEVIS)
http://www.ice.gov/sevis

U.S. Department of State
Bureau of Consular Affairs
http://travel.state.gov/visa/visa_1750.html

U.S. Department of State
Bureau of Educational and Cultural Affairs
http://www.exchanges.state.gov/

U.S. Department of State
EducationUSA
http://educationusa.state.gov/

U.S. National Park Service
http://www.nps.gov

ウェブサイト（非政府組織）

AMIDEAST, America-Mideast Educational and Training Services
AMIDEAST is a private, nonprofit organization that strengthens mutual understanding and cooperation between Americans and the peoples of the Middle East and North Africa.
http://www.amideast.org/

American Park Network
Comprehensive source of information on national parks and public lands, including visitor guides for national parks.
http://americanparknetwork.com/info/about-us

Council on International Educational Exchange (CIEE)
CIEE is the leading U.S. non-governmental international education organization. CIEE creates and administers programs that allow high school and university students and educators to study and teach abroad.
http://www.ciee.org

Council for International Exchange of Scholars
The Council for International Exchange of Scholars (CIES), the scholar division of the Institute of International Education (IIE), is well known for its expertise and extensive experience in conducting international exchange programs for scholars and university administrators.
http://www.cies.org

U.S. Travel Association
This association assists members with programs and platforms to help promote travel to and within the United States, especially through International Pow Wow, the pre-eminent international trade show bringing travel to America; DiscoverAmerica.com, the official U.S. travel and tourism web site; and Discover America pavilions, exhibition showcases at travel trade shows around the world.
http://www.ustravel.org/

映像

America by Rail (2005)
Producer: Topics Entertainment
Length: Four videos (201 minutes)
Color
Summary: Tour the United States from Washington, D.C., to San Francisco by train in this railroad adventure which explores America's scenic beauty and legendary trains. Videos include matching maps of the areas.
http://www.imdb.com/title/tt0166967/

The National Parks: America's Best Idea (2009)
Producer: Ken Burns/Florentine Films
Length: Six videos (700 minutes)
Color
Summary: TV mini-series [six episodes]
The history of the U.S. National Parks system, including the initial ideas which led to the world's first national parks and the expansion of the system over 150 years.
http://www.imdb.com/title/tt1464482/

North America's National Parks (2008)
Producer: Topics Entertainment
Length: Four videos (265 minutes)
Color
Summary: Explores some of North America's most celebrated landscapes in North American national parks, including Yellowstone, Yosemite, Alaska's Denali, and the grand canyons.

Over New England (2008)
Producer: Topics Entertainment
Length: Four videos (263 minutes)
Color
Notes: Emmy-Award winner
Summary: Celebrates New England's landscapes and landmarks, from red barns, white steeples and village greens to rugged coastlines, safe harbors and lighthouses, all part of its distinctly regional character.

米国国務省は、上記各資料の内容および入手の可能性については責任を負いません。インターネットリンクは2012年３月現在、全て有効でした。

米国大使館 / アメリカンセンター
レファレンス資料室

札幌アメリカンセンター・レファレンス資料室
〒064-0821　札幌市中央区北1条西28丁目　米国総領事館内
Tel: 011-641-3444
Fax:011-641-0911

米国大使館レファレンス資料室
〒107-8420　東京都港区赤坂1-10-5
Tel: 03-3224-5292　(レファレンスサービス)
Tel: 03-3224-5293　(来館予約)
Fax:03-3505-4769

関西アメリカンセンター・レファレンス資料室
〒530-8543　大阪市北区西天満2-11-5　米国総領事館ビル6階
Tel: 06-6315-5970
Fax:06-6315-5980

福岡アメリカン・センター・レファレンス資料室
〒810-0001　福岡市中央区天神2-2-67　ソラリア・パークサイドビル8階
Tel: 092-733-0246
Fax:092-716-6152

米国大使館のウェブサイト

米国大使館　http://japanese.japan.usembassy.gov

米国大使館携帯サイト　http://usembassy.jp